



# EF EPI

EF English Proficiency Index

[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi)

2014



P.10 BRIC諸国



P.22 中南米



P.18 ヨーロッパ

# 目次

---

04	EF EPI第4版の紹介
06	要約
08	EF英語能力指数トレンド
10	BRIC諸国
14	アジア
18	ヨーロッパ
22	中南米
26	中東・北アフリカ
30	英語と経済競争力
32	英語能力とビジネス
34	英語と生活の質
36	英語と 学校教育
37	英語とテクノロジー
38	結論
40	今後の展望:言語評価におけるEF EPIとイノベーション
42	付録A: この指標について
43	付録B: CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)と各レベル詳細
44	付録C: EF EPI各国スコア
46	付録D: 参考資料

# EF EPI第4版の紹介

---

EF英語能力指数 (EF EPI)第4版では、計63の国と地域のランキングを行っています。国別ランキングの作成には、2013年にEFの英語試験を受験した18歳以上の成人75万人分の試験データを使用しました。また、EF EPIデータの収集をはじめた7年前の2007年まで遡り、どの国や地域の英語能力が向上または低下したのかを調査しています。データの分析方法についての詳細は「この指標について」(42頁)をご参照ください。

最初のセクションでは、アジア、ヨーロッパ、中南米、北アフリカ、中東に加え、BRIC諸国( ブラジル、ロシア、インド、中国 )で顕著になっている地域的トレンドを分析しました。グローバル化に適応した人材トレーニングをどのように行っていくかと言った課題や戦略における各国の多様性が浮き彫りになっています。

地域的な分析の次には、英語能力と収入、ビジネスの行いやすさ、生活の質、学校教育の期間、インターネット普及などを含む社会および経済指標との相関関係を調査しています。

最後に、言語学習者がより高品質な英語試験を受験できるよう、EFが開発した新しい英語評価試験EF Standard English Testの来年度以降の展望を示します。





# エグゼクティブ・サマリー

EF EPI第4版では63の国々と領域における成人の英語能力を順位付けしています。



2014年現在、英語はグローバル化経済におけるコア・コンピテンシー(中核となる能力)であるという考えがさらに拡大している中、英語教育に対するアプローチは国によって様々で、各国独自の課題、制約、解決法があります。国際的な注目を集めるオリンピックやワールドカップなどが成人の学習意欲の基盤となっている例もあります。その一方で、経済的な打開策として、国際化と成長の促進剤として英語の使用を後押ししている国々もあります。多くの国で教育当局や関係者が英語が母国語の脅威となるか否かが議論され、学校の授業で新たな取り組みを始めるために必要な教師をトレーニングする手法を熟考し、適切な評価ツールの確立に苦戦しています。

英語教育についての議論が教育省庁で続いている間にも、保護者たちは子供の学校外での英語教育に対して熱心に投資を行っています。大学院生は海外の大学へと向かっています。意欲的なプロフェッショナルは夜間にインターネットで学び、企業は英語が堪能な志願者に対してボーナスを出しています。ほとんどの学校制度が提供している英語教育と保護者、学生、社会人が求める英語教育にはいまだに大きな隔たりがあると言えるでしょう。

EF英語能力指数第4版では、第3版で分析した地域別・人口動態別変化のトレンドが実際に確認されました。年次の国際指標の作成に加え、EFは地域的英語レベルおよび性別間と世代間における英語能力の差についての分析も更新しました。最新データからは次のことが分かります：

- 世界的に成人の英語能力は向上していますが、全ての国と国民が足並みをそろえて向上しているとは言えません。

- 世界的そして調査をした国のほぼ全てにおいて女性は男性より英語能力が優れています。男女での英語能力の差は職場に影響を及ぼすほど顕著です。男性の英語能力が劣っている原因を理解することが解決策を見つけるための第一歩でしょう。

- 世界的に、他のどの年齢グループよりも中堅世代の英語能力が優れています。この知見により、学校を卒業したばかりの新社会人の職場での即戦力について疑問が持ち上がっています。また、成人が伝統的な学校教育以外で英語能力を向上させることができることを示す良い例となっています。

- ヨーロッパの英語能力は他の地域よりも依然としてはるかに高く、さらに向上を続けています。

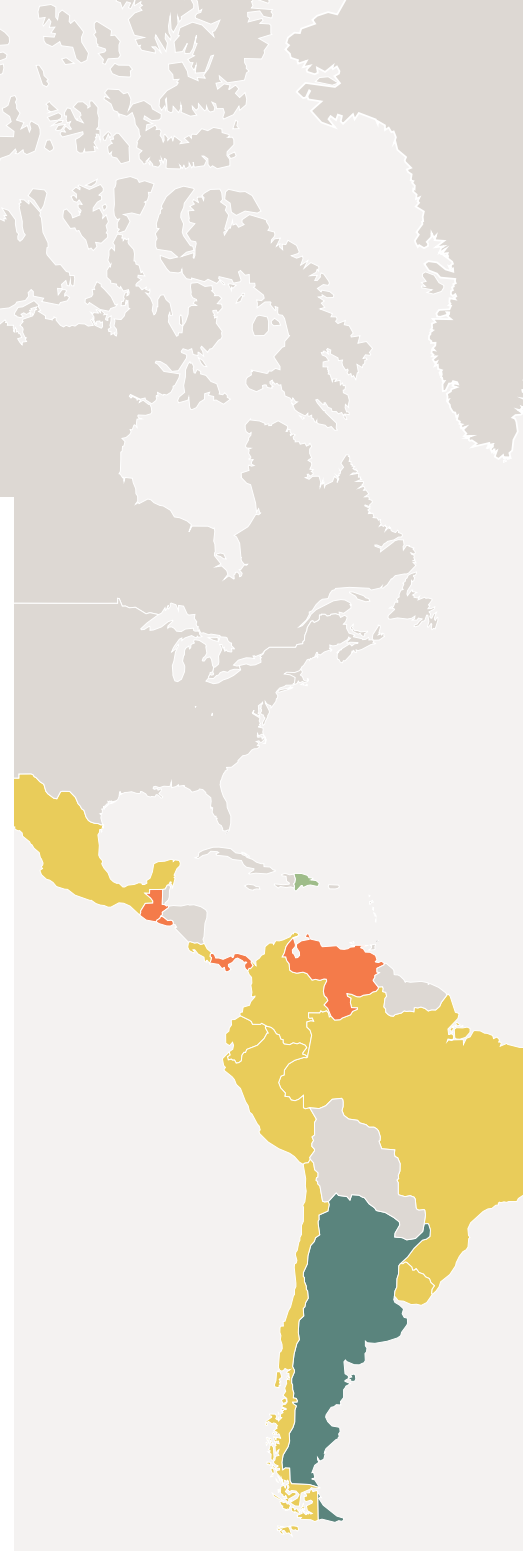
- アジアの国々は「高い」から「非常に低い」まで能力レベルに開きがあり、長く続く低迷と劇的な進歩が同時に起きています。

- 中南米、中東、北アフリカのほぼ全ての国々が「低い」または「非常に低い」英語能力となっています。これらの地域でも向上している国々もありますが、ほとんどの国は向上していません。

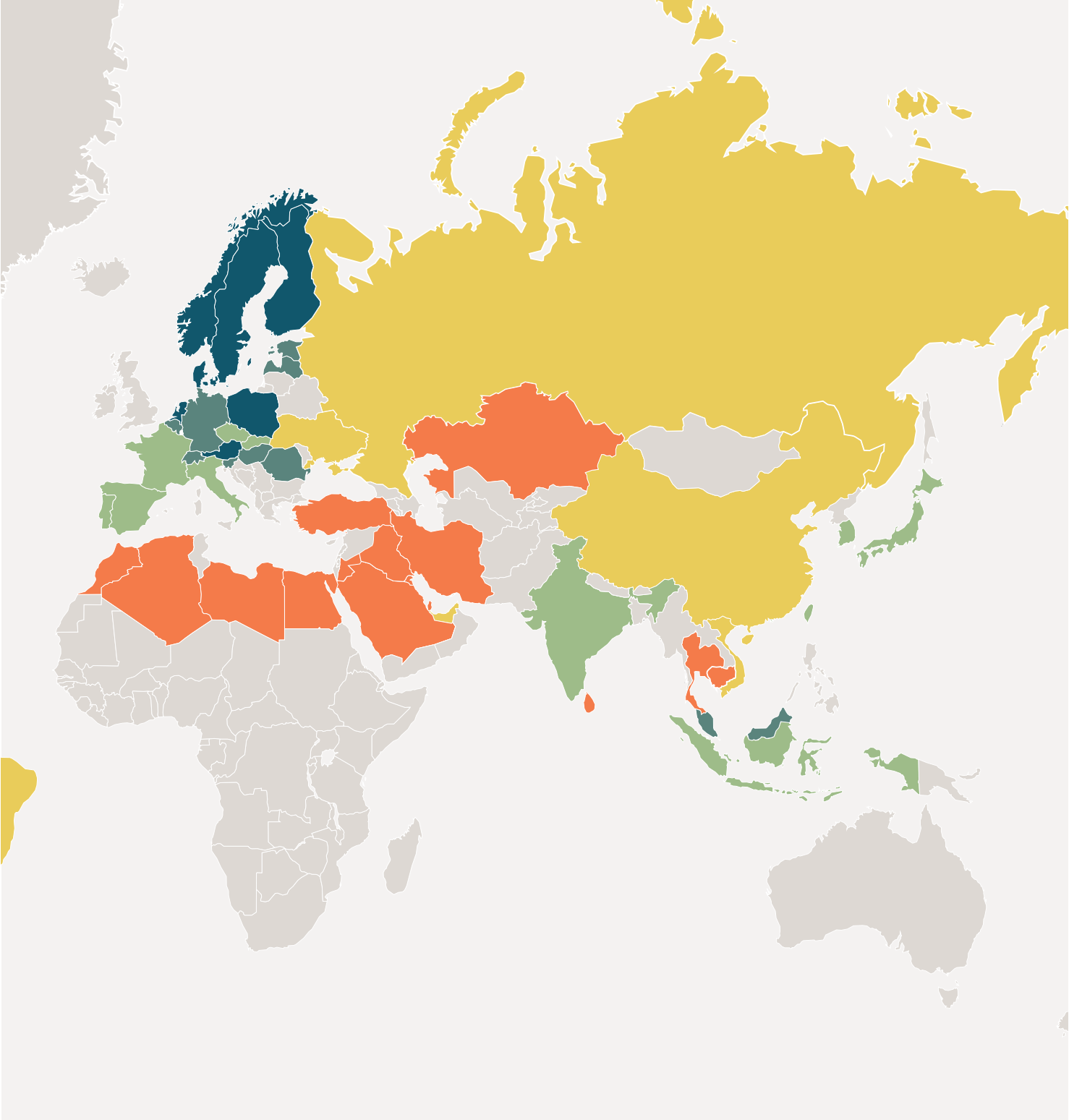
- 英語能力と収入、生活の質、ビジネスの行いやすさ、インターネット普及、および学校教育の平均就学年数の間には強い相関関係があります。これらの相関関係は長い期間、驚くほど変化していません。

# EF英語能力指数2014

非常に高い			低い		
01	デンマーク	69.30	32	アラブ首長国連邦	51.80
02	オランダ	68.99	33	ベトナム	51.57
03	スウェーデン	67.80	34	ペルー	51.46
04	フィンランド	64.40	35	エクアドル	51.05
05	ノルウェー	64.33	36	ロシア	50.44
06	ポーランド	64.26	37	中国	50.15
07	オーストリア	63.21	38	ブラジル	49.96
高い			39	メキシコ	49.83
08	エストニア	61.39	40	ウルグアイ	49.61
09	ベルギー	61.21	41	チリ	48.75
10	ドイツ	60.89	42	コロンビア	48.54
11	スロベニア	60.60	43	コスタリカ	48.53
12	マレーシア	59.73	44	ウクライナ	48.50
13	シンガポール	59.58	非常に低い		
14	ラトビア	59.43	45	ヨルダン	47.82
15	アルゼンチン	59.02	46	カタール	47.81
16	ルーマニア	58.63	47	トルコ	47.80
17	ハンガリー	58.55	48	タイ	47.79
18	スイス	58.29	49	スリランカ	46.37
標準的			50	ベネズエラ	46.12
19	チェコ共和国	57.42	51	グアテマラ	45.77
20	スペイン	57.18	52	パナマ	43.70
21	ポルトガル	56.83	53	エルサルバドル	43.46
22	スロバキア	55.96	54	カザフスタン	42.97
23	ドミニカ共和国	53.66	55	モロッコ	42.43
24	韓国	53.62	56	エジプト	42.13
25	インド	53.54	57	イラン	41.83
26	日本	52.88	58	クウェート	41.80
27	イタリア	52.80	59	サウジアラビア	39.48
28	インドネシア	52.74	60	アルジェリア	38.51
29	フランス	52.69	61	カンボジア	38.25
30	台湾	52.56	62	リビア	38.19
31	香港	52.50	63	イラク	38.02







英語レベル

● 非常に高い

● 高い

● 標準的

● 低い

● 非常に低い



# ブラジル ロシア インド 中国

# BRIC諸国の急激な成長

世界の上位10位内に入る経済規模を有するBRIC諸国は、全体で世界人口の半数近くを占めており、グループとして特筆するに値します。BRIC諸国の4ヶ国中3ヶ国が近年オリンピックを開催したか、近々開催する予定があり(2008年北京、2014年ソチ、2016年リオデジャネイロ)、オリンピック開催が英語トレーニング普及の起爆剤として活用されています。

トレーニングに対する多額の公的および私的な投資が功を奏し、BRIC諸国では英語能力が着実に向上しています。4ヶ国全てにおいてEF EPIスコアが7年前より高くなっており、各国のポイントは2.50ポイント以上の伸びを見せています。特にインドの進歩は目覚ましく、2007年には中国より下位でしたが、ここ最近の2年間はBRIC諸国の中で首位となっています。このような向上が見られる一方で、ブラジル、中国、ロシアの成人の英語能力は依然として低いまま留まっており、インドだけが他の3ヶ国より抜きん出た結果となっています。

成長を続ける他の経済と同様に、BRIC諸国は英語を話せる競争力のある労働者を必要としています。国際化は成長の重要な要素であるため、政府と民間セクターの双方が英語トレーニングに莫大な投資を行っています。

## ブラジル

ブラジル政府が10万人のSTEM(サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、数学)の学生を海外に送り出すため、Science Without Borders(国境なき科学)プログラムを開始した際、英語能力の低さが原因で多くの学生がプログラムへの参加を認められませんでした。それをきっかけにブラジル教育省はEnglish Without Borders(国境なき英語)プログラムを実施し、500万人の大学生に英語のオンラインコースを提供、海外留学を希望する50万人の学生が無料でTOEFLテストを受験できるようにしました。民間企業では、大規模な国際企業が私立学校を買収し、ブラジルの英語教育市場を30億米ドルに成長させて、中南米で最大規模になっています。

## 中国

中国の英語教育市場は75億米ドルと推定されており、国内の隅々までよく発達しています。しかしながら、大学入試における英語の必須要件が最近変更されたことによって、学生が英語学習にどの程度取り組むべきか世間の議論が急増しています。中国でトップレベルの大学のグループでは独自の入試科目を設置し、一部の学部での英語試験はそのまま継続しながらも、エンジニアリングやアートなどの特定

の専攻からは英語の試験を廃止しました。北京の教育局は2016年から全国大学統一入試(gaokao)における英語科目の比重を下げることを計画しています。その他の省や県でも同様の動きが見られます。このような方針の転換が小中学校や高等学校のカリキュラムや英語教育業界にどのような影響を与えるかは、今後明らかになってくるでしょう。

## ロシア

近年、グローバル化が進むロシアの市場にとって英語は必要不可欠なものになっています。ビジネス旅行や観光客の増加に応じて、何百ものウェブサイトがライブの個人レッスンを提供しています。学校で受ける従来の英語クラスと比較すると、このようなプライベートオンラインコースはリスニングとスピーキングスキルに重きを置いた、より実践的なレッスンを提供しています。ロシアの英語教育市場は3億米ドルになり、今も拡大していますが、他のBRIC諸国と比べるとその額は依然として低くなっています。教育市場はより裕福なモスクワやサンクト・ペテルブルクの街に集中しており、市場全体の50%以上を占めています。

## インド

植民地時代の名残りで、インドは英語を主要言語とする国です。しかしながら、最も信頼できるデータによると、植民地時代でも英語を話していたインド人は全体の5%以下でした。近年、1億2千5百万人の英語を話す人々(全人口の約10%)がいるインドは、世界で2番目に大きな英語圏の国となりました。世界で最も言語が多様化している国の一つであるインドでは、教育制度で75言語の使用が許可されています。英語は最もよく教えられている外国語で、35州中33州でカリキュラムに含まれています。英語を使って指導を行う私立学校の人気の高まりが、州政府による公立学校の英語使用の推進に拍車をかけています。このような英語への重点的な取り組みによって全体的な英語スキルの向上に繋がりましたが、依然として大きな課題も残っており、その中でも一番の課題は、国全体における英語教師不足となっています。

## 今後の課題

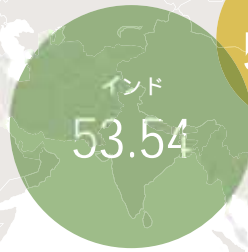
BRIC諸国は国民の英語能力向上について、いくつもの共通した課題を持っています。全てのBRIC諸国で、公立学校における英語教育の質は、富裕層と貧困層、都市と地方で大きな開きがあります。BRIC諸国は国土面積が広く文化的にも多様化しており、共通の教育基準を適用することが非常に困難です。大学では成績の良い生徒を集めるため競争が激化しており、トップクラスの大学は英語を教育指導の言語として採用していますが、英語で指導するための準備がどれだけできているかは各教職員によってまちまちなのが現状です。

BRIC諸国では多くの教師が対話教育法のトレーニングを受けるようになりましたが、クラスの生徒数が多すぎる(1クラスあたり60~80人の場合もある)場合や、柔軟性のないカリキュラムや教材、文法に重きを置いた標準テストのせいで対話教育法を必ずしも実践できていない場合があります。生徒がコミュニケーションスキルを向上させるために必要な会話練習を行うことに、多くの教師が苦戦しています。

これらの成長著しい経済大国における英語能力に対する必要性は普遍的ですが、BRIC諸国の成人は過去10年の間に英語能力を向上させることができましたが、大多数の人は英語を専門的に使用できるほど優れた英会話能力を持ちません。英語でこの巨大な労働力の競争力を向上させるためには、教育担当者が持続的に公立学校の教師の英語能力の向上させ、入学試験などの重要なテストでコミュニケーションスキルを重視した見直しを行い、教師が対話教育法を授業で実践できる機会を設けなければなりません。

# BRIC諸国

EF EPI ランク  
インド #25  
ロシア #36  
中国 #37  
ブラジル #38



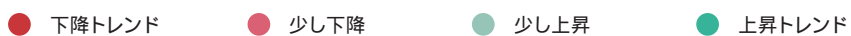
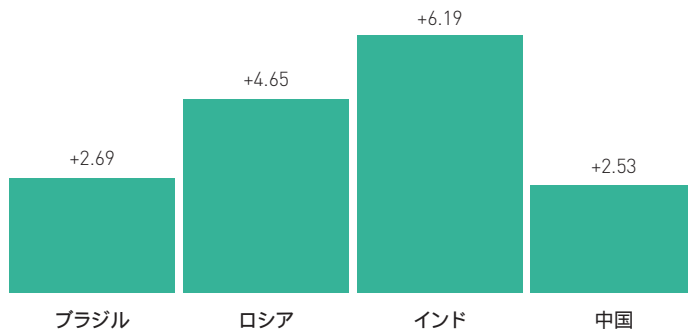
英語レベル



## EF英語能力指数トレンドマップ

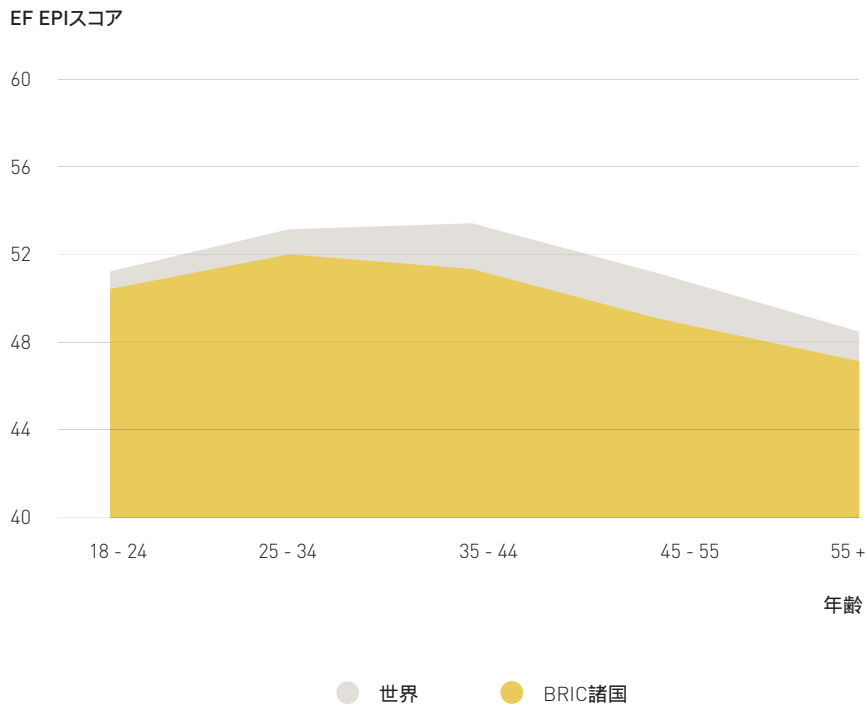
4ヶ国全てが、7年前の結果より少なくとも2.50ポイント以上、英語能力が向上しています。全体として上昇傾向にあるものの、ブラジル、中国、ロシアの高い年代では相変わらず英語能力が低く、インドで若干の上昇が見られるにとどまっています。

EF EPI スコア変化



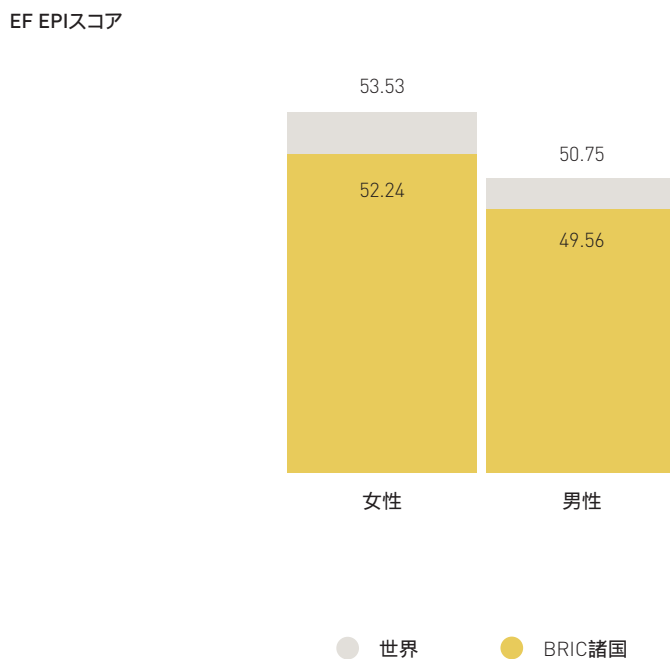
## 年齢別EPIスコア平均

中堅世代(25~34歳と35~44歳)の英語能力レベルが最も高くなっています。若年成人(18~24歳)はわずかに劣っていますが、やはり44歳よりも上の世代で英語レベルが最も低くなっています。BRIC諸国の全ての年代グループが世界平均を下回っています。



## 男女別EPIスコア平均

BRIC諸国では、男女の差が顕著です( $p < 0.001$ )。女性の能力が男性よりも高くなっていますが、男女ともに世界平均を下回っています。





# アジア

# 英語トレーニングへの投資を続けるアジア諸国

アジア地域の成人の英語能力は着実に向上していますが、向上率は国によって大きく異なります。2007年以降、地域平均は3.52ポイント増え、ヨーロッパと同等の伸びを見せています。アジア大陸の共通語はアジアの言語ではなく英語です。アジア内にある2つの主要な機構 - アジア太平洋経済協力会議 (APEC) と東南アジア諸国連合 (ASEAN) では英語が公用語として使用されています。

地域トレンドに逆行し、アジアで最も裕福な地域のいくつかでは英語能力の向上が見られませんが、昨年のOECDによる生徒の学習到達度調査(PISA)の結果によると、アジアは世界で最も優れた教育制度を有し、上海、台北、香港、シンガポール、日本、韓国が読解力、数学、科学で上位を独占しています。しかしながら、これらの国々の中で高い英語能力を有するのはシンガポールだけです。香港、日本、韓国は過去7年に渡る英語教育への多額の投資にもかかわらず向上していません。このような成績の差があることについて、英語教育とその他の科目の教育にどのような違いがあるのか疑問が浮上しています。

東南アジアの3ヶ国が目立った向上を見せています。タイ、インドネシア、ベトナムは過去7年間で7ポイント以上伸びており、世界の中でも最も早い伸び率です。インドネシアは7年間で香港、日本、台湾に追いつきました。

## 改革を進めるベトナム

昨年PISAのランキングに初登場したベトナムに誰もが驚きました。ベトナムは65の国と経済区の中で17位、読解力、数学、科学ではイギリスと米国よりも上位となりました。ベトナムは一人当たりのGDPが1,600米ドルで、PISAの調査に参加している国の中で最も貧しい国です。

ベトナムはまた、英語教育の分野で大幅に前進しており、政府はさらなる向上を目指しています。2008年にベトナム政府が可決したDecision 1400では、2020年までに「外国語はベトナム国民にとって発展の大きな武器となる[だろう]」と宣言されています。政府は2008年から2020年の期間、言語学習に4.5億米ドルを投入する予定で、その額の85%が教師のトレーニングに割り当てられています。

ベトナム国家教育制度における外国語教育・学習(2008-2020年)プロジェクトの責任者であるTu Anh Thi Vu博士は「英語は世界で最も重要なビジネス言語です。グローバル化の過程にあるベトナムは、コミュニケーションを目的とした英語教育に重点を置いた言語教育の改革に全力を注いでいます。」と記しています。

しかしながら、プロジェクト2020の創設経営幹部であるHung Ngoc Nguyen博士は「[プロジェクト2020]が成功するか私には確信がありません。他国は民間セクターで英語教育に莫大な金額を費やしていますが、それでも政府が満足できる結果は出ていません。」と付け加えています。

## 上海に遅れをとる香港

Nguyen博士の見解は、トレーニングへの多額の投資にもかかわらず過去7年間に英語レベルが向上していない香港、日本、韓国に特に当てはまります。2007年以降、香港は下降し続けています。中国の平均英語レベルが向上してバイリンガルの労働力が拡大し、北京や上海など中国の主要都市がアジアビジネス第一の国際拠点として成長する中で、香港はその役割を何十年にもわたってシンガポールと共有してきました。マッキンゼー・アンド・カンパニー香港支社代表のJoe Ngai氏は香港の新卒者よりも標準中国語と英語のスキルが優れた中国本土の新卒者を雇いたいと発言したことで、2013年の話題となりました。今年はこれまで初めて、上海の成人が香港の成人よりも顕著に高い英語能力を示し、北京と天津のスコアも香港と同等になっています。(より詳しくは[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi)から中国の概況報告書をご参照ください。)

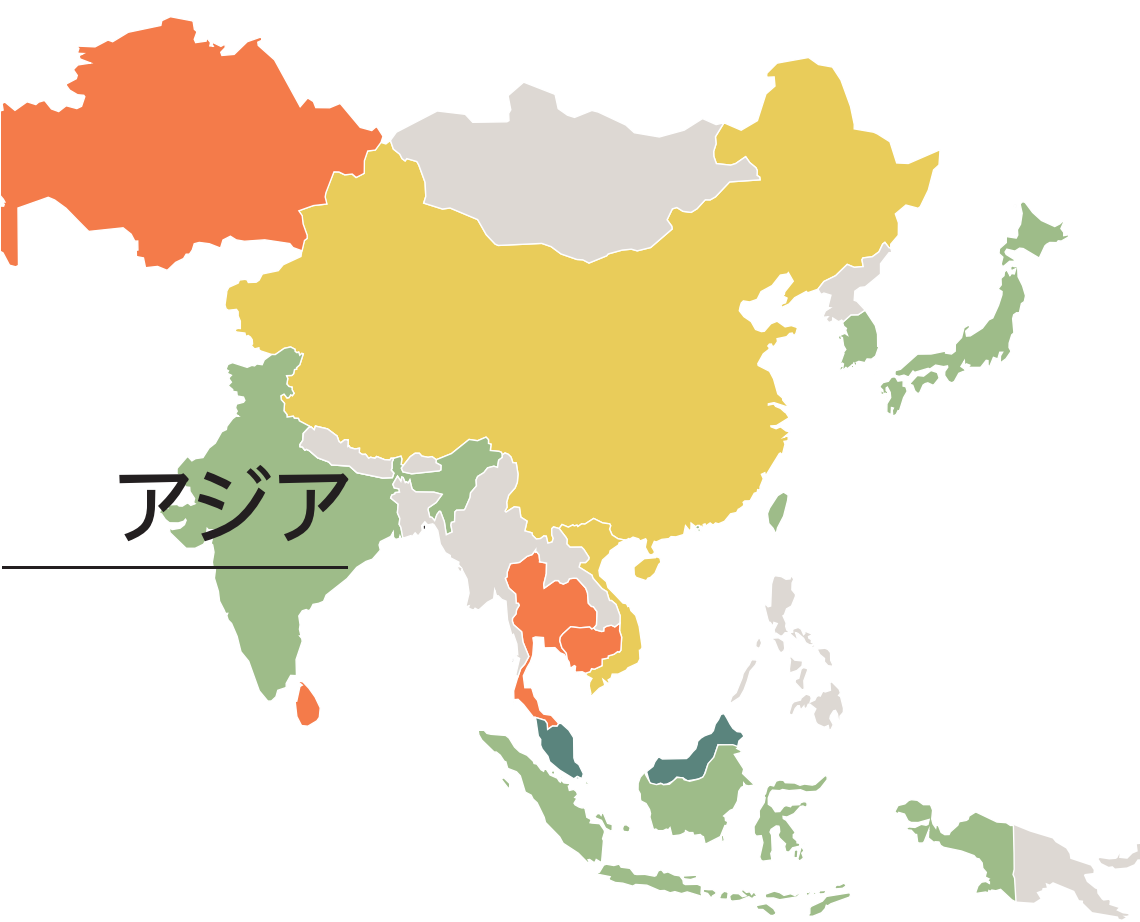
## 韓国、そして日本も低迷中

韓国は他のどの国よりも英語教育への個人投資額が高額です。ところが、韓国のEF EPIスコアは低迷しています。韓国の英語教育を改善するには、生徒が実践的なコミュニケーションスキルを身に付けるのを教師が助けること、文法と語彙に重きを置いた入学試験などの重要なテストから教師と生徒を解放することが必要であると教育の専門家たちは指摘しています。

日本の教育システムも同様の問題に直面しています。従来の教育法を改良するため、日本は新しい改革に着手しています。今年はじめに、日本の文部科学省は英語教育についてのミーティングのいくつかを英語で行うという前代未聞の4ヶ月トライアルを実施しました。明治大学と立命館大学を含む少数の一流大学で、英語だけを使って授業を行う学部プログラムの提供が始まっています。2020年東京夏季オリンピックが差し迫る中、英語教育にさらなる資金とメディアの注目が集まっています。

経済的、政治的な影響力が増しているアジアの国々には、まだまだ英語能力の向上の余地があります。アジア地域にはマレーシアやシンガポールのような成績の良い国もあれば、タイやカンボジアのように英語力が非常に弱い国もあります。アジアの英語レベルは多様化していますが、国の継続的な成長と発展のために、英語が重要であることは全ての国で共通して認識されているようです。

# アジア

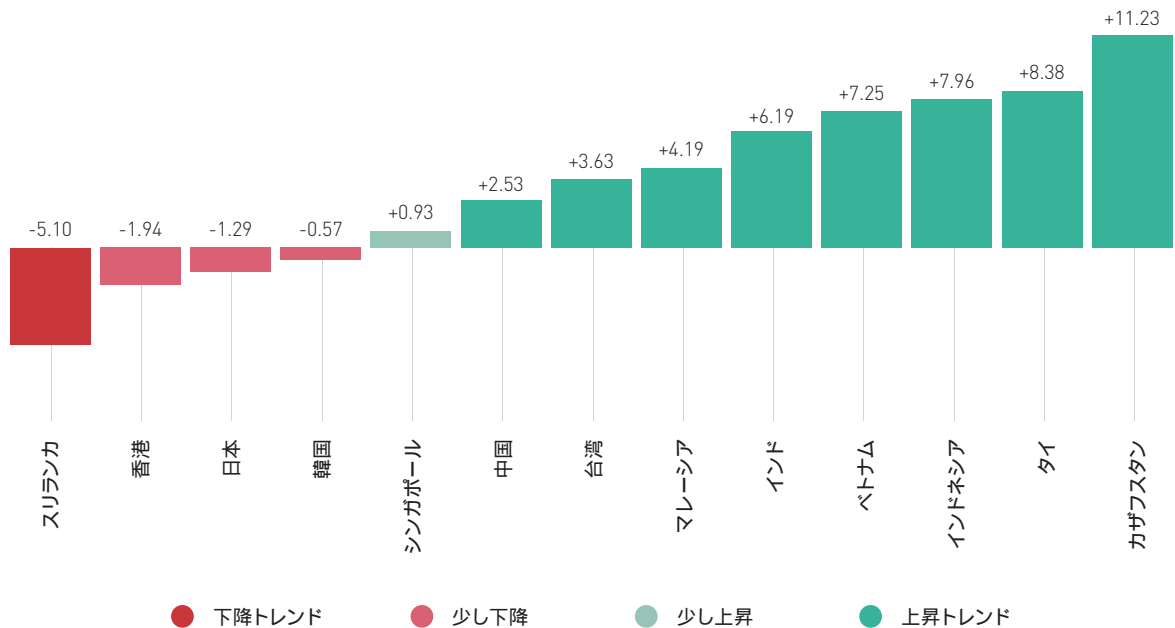


英語レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF英語能力指数トレンドマップ

2007年以降、アジアのEF EPIスコアは平均で3.52ポイント向上しており、ヨーロッパに匹敵する英語能力の上昇を示しています。ただし、全体の傾向に逆行して、アジアでも最も裕福な地域では英語能力の改善に失敗しています。

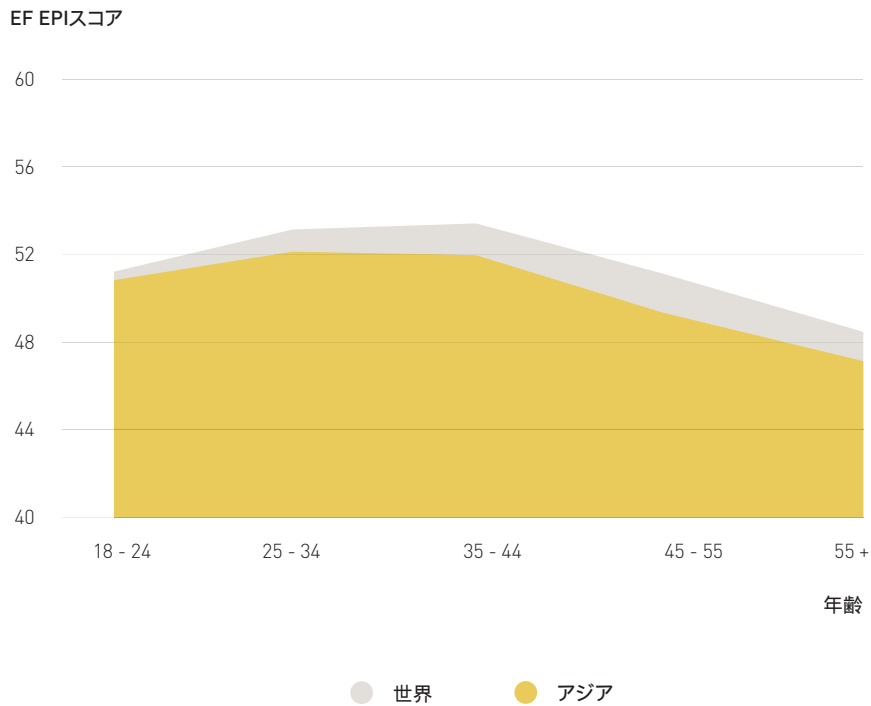
EF EPI スコア変化





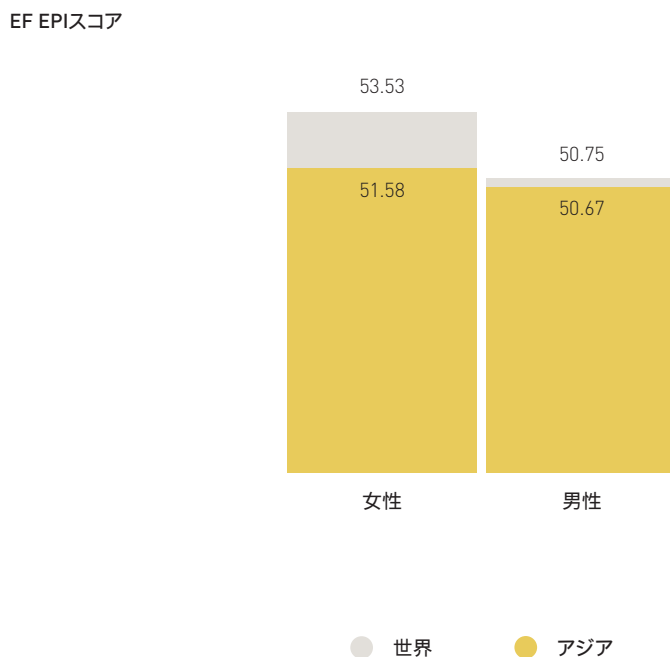
## 年齢別EPIスコア平均

アジアの世代間の差は世界的トレンドと同様、中堅世代(25~34歳と35~44歳)の英語能力が最も高く、続いて若年成人(18~24歳)、45歳以上の順になっています。アジアの全ての年代グループが世界平均を下回っています



## 男女別EPIスコア平均

アジアでは女性が男性よりも良い結果を出しています( $p < 0.01$ )、アジア人女性が女性の世界平均よりも2ポイント近く下回っているため、アジア人の男女差は世界における男女差よりも大幅に小さくなっています。





# ヨーロッパ

# 依然として英語能力が高いヨーロッパ

ヨーロッパの成人の英語能力は非常に優れています。今年の指標では、上位22ヶ国中19ヶ国がヨーロッパの国であるだけでなく、世界で「非常に高い」に順位付けられた国も全てヨーロッパの国でした。ヨーロッパの強さはEF英語能力指数第1版から報告されています。驚くべきことに、英語スキルが既に優れているにもかかわらずヨーロッパは向上し続けています。2007年以降、ヨーロッパの平均能力レベルは3.59ポイント上がりました。ドイツ、ベルギー、オーストリア、イタリア、スイスを含む多くの国がこの地域平均に一致した英語能力の上昇を見せています

ポーランド、ハンガリー、スペインは急速に向上  
ヨーロッパでは英語能力が急上昇している3ヶ国が際立っています。ヨーロッパで2007年以降に英語能力が最も向上したのはポーランドです。この事実は国の変化を追跡している他の教育指標とも一致します。ポーランドの数学、読解力、科学の最新PISAスコアはヨーロッパ最上位に入っています。

ポーランドは生徒のモチベーションを高等教育終了時まで保つことで大学生の数を増やし、教育成果の平等性を向上させることを目的として、1990年代および2000年代に教育制度の見直しを行いました。その結果として、ポーランドの労働力は国際的な機動性や取引能力を伸ばし、ポーランド経済はヨーロッパの中で最も急速な成長を遂げました。

ハンガリーの成人もまた、他の大多数のヨーロッパの国々よりも英語能力を向上させています。大学制度をヨーロッパ基準に合わせるために行われたハンガリーにおける全面的な教育改革で、中学校、高等学校の全ての能力別クラスに外国語が強制的に導入されました。現在ハンガリーの大学では適正な外国語スキルを持つことが学位取得の必須条件とされています。ハンガリーは未だに教育の課題に直面していますが、全レベルのカリキュラムに外国語を組み入れることで、成人の英語スキルへの効果が既に出ています。

スペインもまた、英語教育に対する姿勢の変化によって結果を出しています。スペイン政府は英語をスペイン語、数学と並ぶ7つの基本スキルの一つとして国家レベルで定義付けてきました。1995年からスペインの一部地域では、公立小学校を生徒が1日の3割を英語で過ごす2ヶ国語学校に変更する動きが始まっています。マドリードは2015年までに全公立学校の半数を2ヶ国語学校にする予定です。スペインの回復を妨げている経済的要因は他にもありますが、若い世代の人々にグローバル化経済において必要不可欠な能力を教育することは間違いなく賢い投資でしょう。

ノルウェーは地域の傾向に逆行  
ヨーロッパでは英語能力の向上に特に力を入れている国々があり、そのような国々の全てにおいて着実な向上が見られる一方、2つの国が反例として際立っています。ノルウェーはヨーロッパで唯一、過去7年の間に英語能力が著しく低下(-4.76ポイント)した国です。ノルウェーの成人は英語を流暢に話す傾向があるため、この事実はなおいっそう特筆するに値します。

しかしながら、ノルウェーの教育の問題を示唆しているのはEFの結果だけではありません。過去20年の間、質よりも平等性を重んじるノルウェーの学校はOECDによって厳しく非難されてきました。ノルウェーはOECDの他の国々よりも生徒一人あたりに高額な費用を掛けているにもかかわらず、OECDの数学、科学、読解力の成績は平均並みです。

過去10年間、ノルウェーの大学カリキュラムをヨーロッパ基準に合わせて再編してきたことが、高等学校および大学の不合格率に甚大な影響を与えており、不合格率は現在30%を超えています。教育システムの質を全面的に上げるため一連の改革が可決されてきましたが、教師たちはその改革に抵抗しています。ノルウェーの英語能力は世界の中では依然として優れていますが、若い世代の人々が学校で十分な英語教育を受けられていないのであれば、これから数年かけて成人の英語能力の低下が続くと考えられます。

フランスもまた、地域トレンドに逆行していますが、低下ではなく停滞しています。現在欧州連合諸国の中で成人の英語能力が最も低いフランスは、向上させるための努力をほとんどしていないようです。言語教育の限定的な教育改革は可決されましたが、結果は全く出ていません。国の英語スキル向上は国民的な議論に上がっていません。議論されることがあるとしても、国民の論議が起こるのは英語の公的な重要性を低く評価する場合に限られます。

フランスの雇用者は他国の雇用者と同様に英語スキルを高く評価していますが、教育システムはそのようなニーズからは切り離されています。フランス人の親たちは、海外旅行、家庭教師、塾などにお金を掛ける余裕のある人々だけが十分な英語能力を習得できると考えています。ごく一部のフランス人学生が個人的な取り組みによって高い英語レベルを達成しているものの、不平等性の非常に高いフランスの学校制度では、ほとんどの生徒は高い英語レベルを達成することができないのが現実です。

欧州連合には全国民のための明確な多言語使用ポリシーがあり、その目標を追求するためにデータを収集し、最良の言語学習の実施を奨励するためメンバー国間の交流を構築しています。このような理由からEUIは、英語のみならず全ての言語の言語能力の世界標準基準となっているヨーロッパ共通言語参照枠(CEFR)を発展させました。ヨーロッパ内外の国は、この枠組みを使うことで独自の国家方針を改善することができるでしょう。

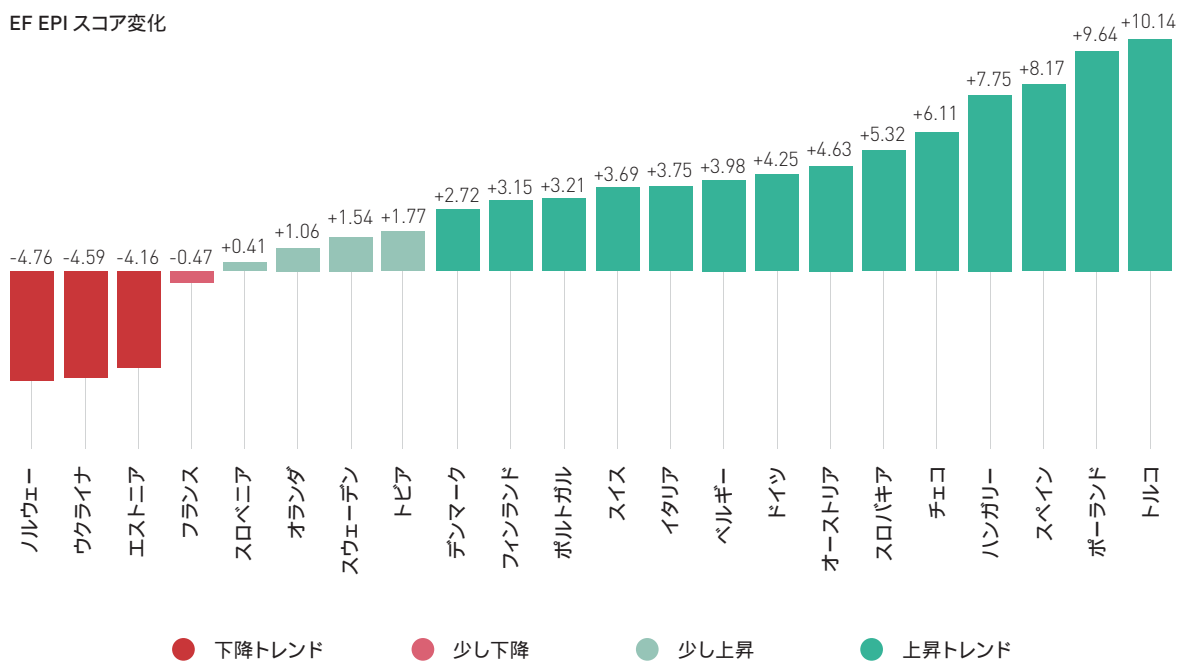
# ヨーロッパ



## EF英語能力指数トレンドマップ

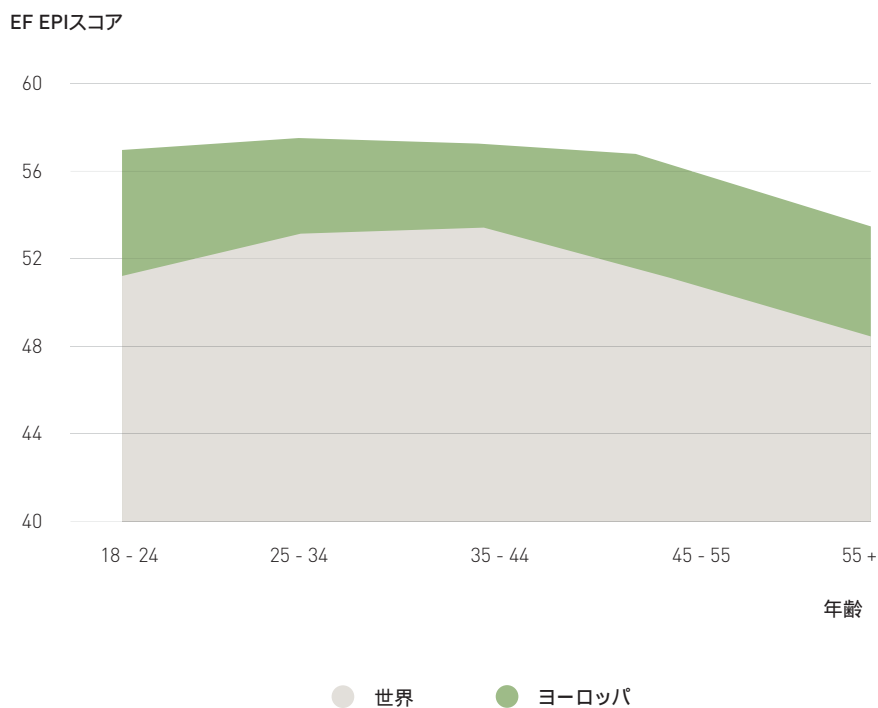
すでに高い英語能力を保持しているにもかかわらず、ヨーロッパでは引き続き英語能力の上昇が見られます。2007年以降、ヨーロッパでは平均して3.59ポイント上昇しました。ただし、そのうち3ヶ国は、英語能力が劇的に低下しています。

EF EPI スコア変化



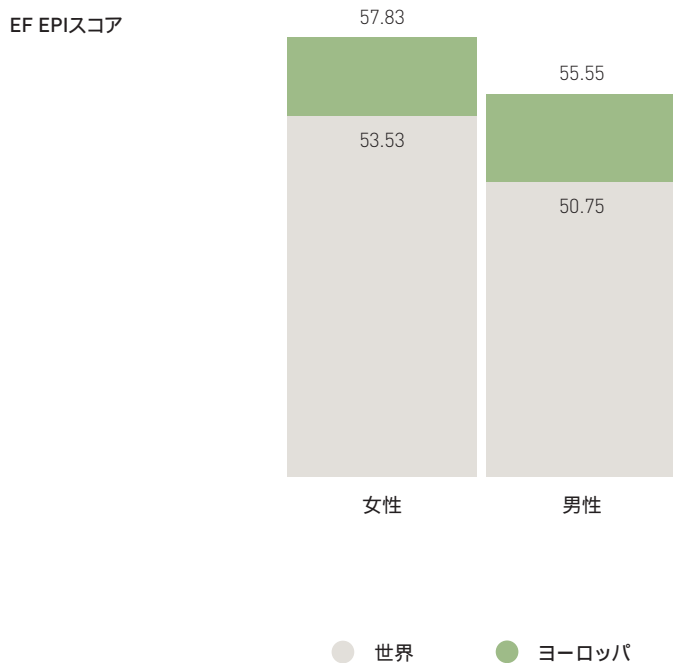
## 年齢別EPIスコア平均

ヨーロッパにおける世代間の差は44歳以下と45歳以上の間で分かれています。若年成人(18~24歳)が中堅世代(25~44歳)の下位にいる世界の他の地域とは異なり、ヨーロッパでは若年成人も中堅世代と同様の英語能力を有しています。



## 男女別EPIスコア平均

ヨーロッパでは男女ともに世界平均よりも顕著に高い結果を出していますが、女性は男性より英語能力が高くなっています( $p < .001$ )。





# 中南米

# 改善のため努力するラテンアメリカ

中南米では、成人の英語能力は低いままです。EFの指標に含まれている中南米の14か国のうち、12か国が「低い」英語能力です。しかしながら、EF EPIスコアの地域平均は上昇しており、2007年以降で2.16ポイント伸びました。ドミニカ共和国、エクアドルとペルーは平均以上を英語能力の伸びを見せていますが、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコとウルグアイでは英語能力が向上していません。

## アルゼンチンが首位の座を守る

アルゼンチンは中南米諸国の中で飛び抜けて英語能力が高く、向上を続けています。公立学校で教師となるには5年間の大学院プログラムを修了しなければならないので、全般的にアルゼンチンの英語教師は高い技能を持っています。最新の2006年アルゼンチン教育法により、アルゼンチン政府は公立学校の4年生から12年生までの全ての生徒に外国語として英語を教えることを必須にしました。

ブエノスアイレス州知事のDaniel Scioli氏は、英語運用能力はアルゼンチンが国際貿易に参加し、取引を加速させるために必要不可欠であると説明しています。近年、南米5ヶ国の政治的および経済的な協定による南米南部共同市場(メルコスール)圏の国々の経済の停滞によって、アルゼンチンは周辺諸国を超えたより多様性のある貿易ネットワークを模索しています。多くのアルゼンチン人にとって、英語を流暢に話すことがグローバル市場に参加するための鍵となっています。

## ドミニカ共和国、チリ、コロンビアは向上

ドミニカ共和国のEF EPIスコアは中南米諸国の中で一番高い伸び率を見せており、2007年には最も低いレベルにいたのが、2013年には標準的なレベルになりました。この進歩には、経済的な動機が大きく作用しています。ドミニカ共和国の第一の貿易相手はアメリカで、輸出の51%と輸入の40%近くを占めています。現在のドミニカ共和国内には英語のコールセンターが100か所あり、国中から35,000人の従業員を雇用しています。2013年には、ドミニカ政府は海外修士号プログラムで2,065人に全額支給奨学金を与え、英語圏の国々と強い学術的な繋がりを築いています。

チリは過去7年間で4ポイント以上伸びました。この進歩は民間および公による英語教育への投資の結果です。2003年に、チリの教育省は国家規模で英語教育を向上させるためEnglish Opens Doors Programを開始しました。過去10年で、認定を受けた1,800人以上の英語を話すボランティアが教師のアシスタントとして採用され、国中の公立学校および半民間学校に配属されています

コロンビアは、顕著な英語能力の進歩を見せたもう一つの国で、チリと類似した手法で、英語圏の様々な国から数百人のボランティアを招き、国営訓練局の5,000人以上の卒業生をトレーニングしています。コロンビア政府は2025年までに地域一の教育制度を構築することを宣言し、英語がスペイン語と同等の重要性を持つ2言語国家となることを想定しています。

## メキシコが直面する大きな課題

ドミニカ共和国と比較すると、メキシコはアメリカとの結びつきがさらに強く、輸出の70%以上を占めています。しかしながら、問題を多く抱えるメキシコの教育制度では、アメリカとの経済協力から利益を得るのに十分なだけの教育を生徒に対して行うことができていません。2009年には、小学校共通の英語コースがメキシコ政府によって提案されました。5年が経過した現時点でも、多くの学校では政府政策がいまだに適用されておらず、特に地方の地域では教師のストライキ、頻繁な抗議行動、

暴力によって政策の実施が妨害されています。政治色が強いメキシコの教育制度の中で、どのように改革を実現するかが大きな課題となっています。

## 教師育成に成功したコスタリカ

メキシコが停滞状態にある一方、コスタリカは将来有望です。2010年の調査では、コスタリカの英語教師の95%が標準的レベル以上で、教育省によって広められた多面的なトレーニングの努力が反映されています。過去7年間、コスタリカの成人の英語能力に大幅な向上はまだ表れていませんが、教師の英語レベルがより高くなったことで、次世代の成人に効果が表れるはずで

2004年から2011年の間に中南米の経済は毎年平均4.3%成長しましたが、現在はグローバル市場の不確実性のため成長が緩やかになる見通しです。PISAやEF EPIを含む世界中の主要な国際教育調査の全てで、中南米の基礎教育の質の低さが成長の妨げになっていることが指摘されています。競争力を高めるためには、中南米諸国は教育改革を最優先させなければなりません。

# 中南米

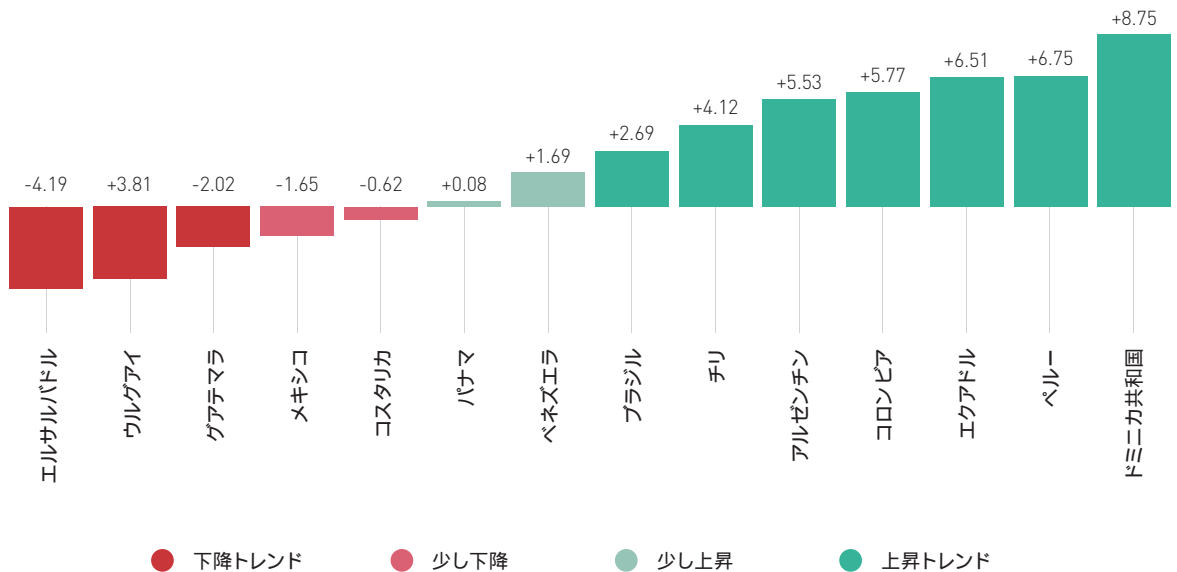


英語レベル ● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF英語能力指数トレンドマップ

ラテンアメリカ14ヶ国のうち、12ヶ国が比較的低い英語能力となっています。しかし、2007年の結果と比べると、平均EF EPIスコアは2.16ポイント向上しており、上昇傾向が見られます。中でもドミニカ共和国、エクアドルとペルーは平均より高いスコアとなっています。

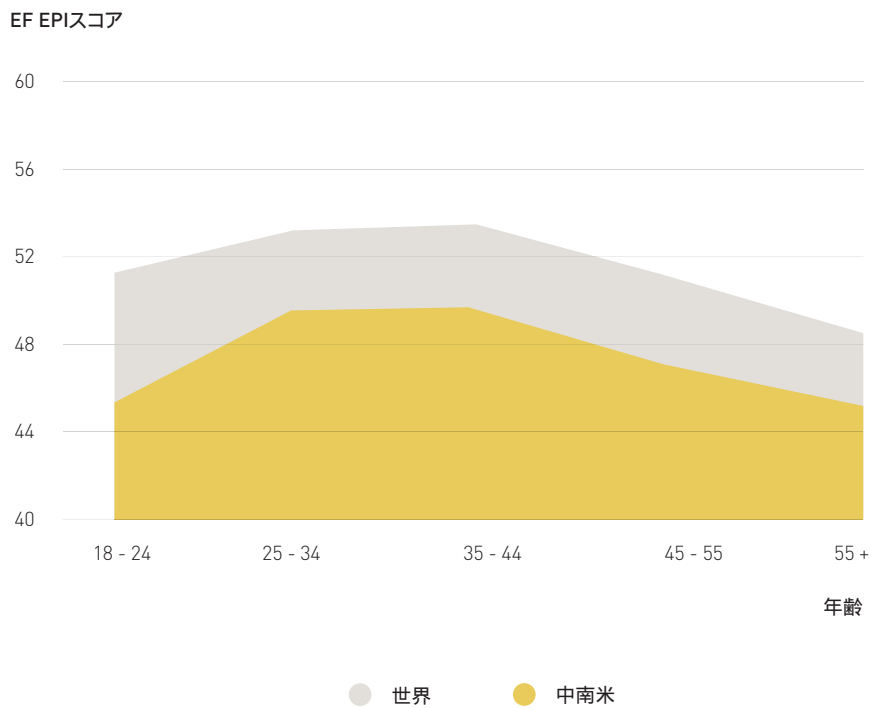
EF EPI スコア変化





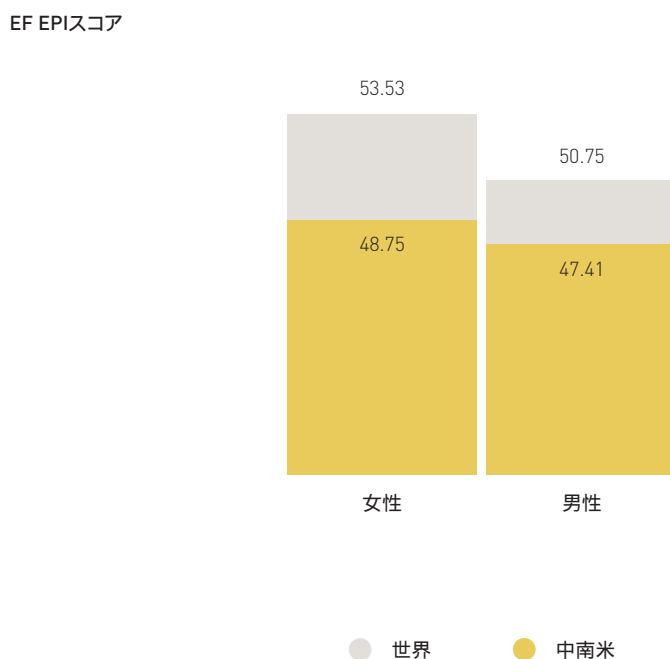
## 年齢別EPIスコア平均

世界的トレンドと同様、中南米では中堅世代(25～34歳と35～44歳)の英語能力が最も高くなっています。しかしながら、世界的トレンドとは異なり、中南米の若年成人は45～54歳のグループよりも大幅に下回っており、55歳以上と同様の英語能力となっています。



## 男女別EPIスコア平均

中南米では男性より女性の英語能力が優れています( $p < 0.001$ )が、男女ともに世界平均を大幅に下回っています。





# 中東・北アフリカ

# MENA諸国の英語力はさらに低下

中東・北アフリカ(MENA)は非常に英語能力が低い地域です。今年の指標で最も能力の低かった10ヶ国のうち8ヶ国がこの地域に含まれています。アジアと同等かそれ以上の成長レベルと教育への投資があるにもかかわらず成績不振です。

過去7年間におけるMENA諸国の英語スキルの低下は、これらの国々が元から低い能力基準であったことを考えると特筆に値します。EF EPIに含まれるヨルダンとアラブ首長国連邦を除く全てのMENA諸国で英語能力がある程度低下しており、著しい低下(4ポイント以上)を見ている国も数ヶ国あります。

このような結果を理解するためには、受験者について考えてみることに役立ちます。MENA諸国のインターネット普及率は依然として低いままです。アラブ首長国連邦、クウェート、カタールを除いて60%未満ですが、現在MENA地域のインターネット普及率は世界で最も急速に上昇しています。インターネットへのアクセスが増えたことで、受験者の人数が中東・北アフリカの現状をより正確に反映するようになりました。この代表サンプル数の増加によって、この地域は前回の代表サンプルよりも英語能力が平均して低下しています。

過去数十年の間、MENA諸国では全ての子どもたちに教育を無料で提供したり、子どもたちを学校に入学させたり、男女が平等に教育に参加できるようにするなど、大きな進展がありました。しかしながら、この地域には長い間解決されていない教育上の問題がまだいくつも残っており、英語教育にも影響を及ぼしています。

## 制度上の課題が低い英語力の原因

MENA諸国の効果的な教育改革における大きな困難の一つが労働市場の構造にあり、多くの国々で労働人口の50%ほどが公営企業に雇用され、この地域以外のほとんどの経済圏よりもはるかに高い割合となっています。終身雇用が保証され、民間企業よりも賃金の高い巨大な公営企業によって学生と従業員両方のやる気が損なわれています。

規模の大きさにかかわらず、公営企業の組織は整備されていないため、大学の卒業生を全て吸収することができず、その結果、資格を持った若い世代の失業率が非常に高く、他地域への移住率も高くなっています。ヨーロッパへの移民流入も一定ではなく、多くが能力以下の仕事に就いています。このような効率の悪い労働市場では、教育改革による経済成長や雇用水準の向上の恩恵がどこに起因するのか明白ではないため、教育改革が困難になっています。

## MENA諸国のベビーブームが教育システムを圧迫

こうした制度上の課題は、MENA諸国に起きているベビーブームによってさらに悪化しています。MENA地域の人口の約21%が15～25歳で、45%は15歳以下です。ここ数年での出生率は下がっていますが、この若い世代の大集団が教育制度にストレスを加えています。

残念なことに、MENA諸国全体としてのEFのデータでは、最近卒業した人々と中堅世代の間に世代間における英語能力の差がありません。学校が効果的な英語教育を現在行うことができなければ、ベビーブーム世代が成人することによって成人の平均能力レベルは急速に上昇するでしょう。しかしながら、向上の兆しを示す証拠はほとんどありません。

アラブ首長国連邦はMENAの中で唯一の例外アラブ首長国連邦の英語能力は世界の中では優れていませんが、MENA諸国内では比較的成り立っており、際立っています。この安定した多様性豊かな国では、2つの教育改革の波が起きています。最初の改革では教師および管理者のトレーニングを改善し、カリキュラムを現代化させました。2010年に公表された第2の改革が

成人の能力に影響を及ぼすにはまだ時期が早すぎますが、この改革の目標である、いくつかの科目で指導言語として英語の使用を増やすこと、全ての学年に科学技術を教えること、全ての小学校で英語を必須科目にすることの3つの目標により、子供の全国テストでは既に結果が見え始めています。

アラブ首長国連邦で連邦大学へ入学するためには全ての学校教育過程で英語が必須科目となっています。しかしながら、小中学校、高等学校での教育が不十分なため、連邦大学の予算の3割が英語コースを含む補習コースにまわされています。高等学校を卒業した後、大学の教養課程を始められるようになるまで1～2年間補習コースを受ける生徒も珍しくありません。幼稚園から高校3年生までの教育不足を大学システムに補わせるのは非効率で高額です。

MENA地域全体として、教育システムの改革は重要ですが、教育の目標となる経済的な動機が伴っていなければ十分ではありません。テクノロジーをより広く使用できるようにし、大規模な民間企業が成長できるよう経済を再構築することが特に必要となるでしょう。

# 中東・北アフリカ

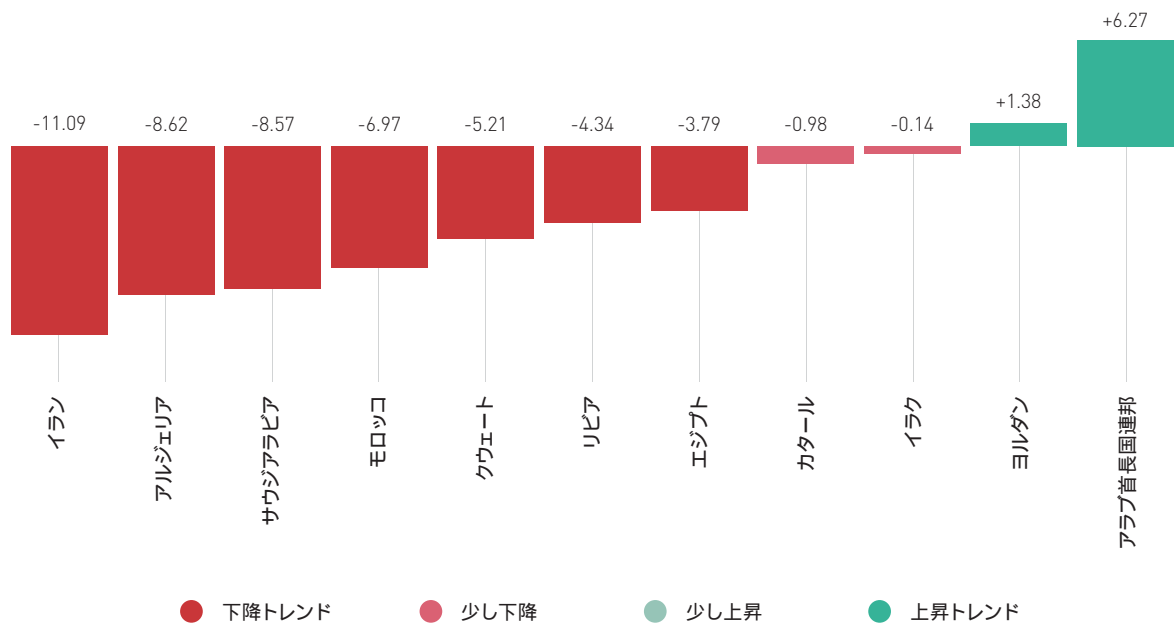
英語レベル

● 非常に高い ● 高い ● 標準的 ● 低い ● 非常に低い

## EF英語能力指数トレンドマップ

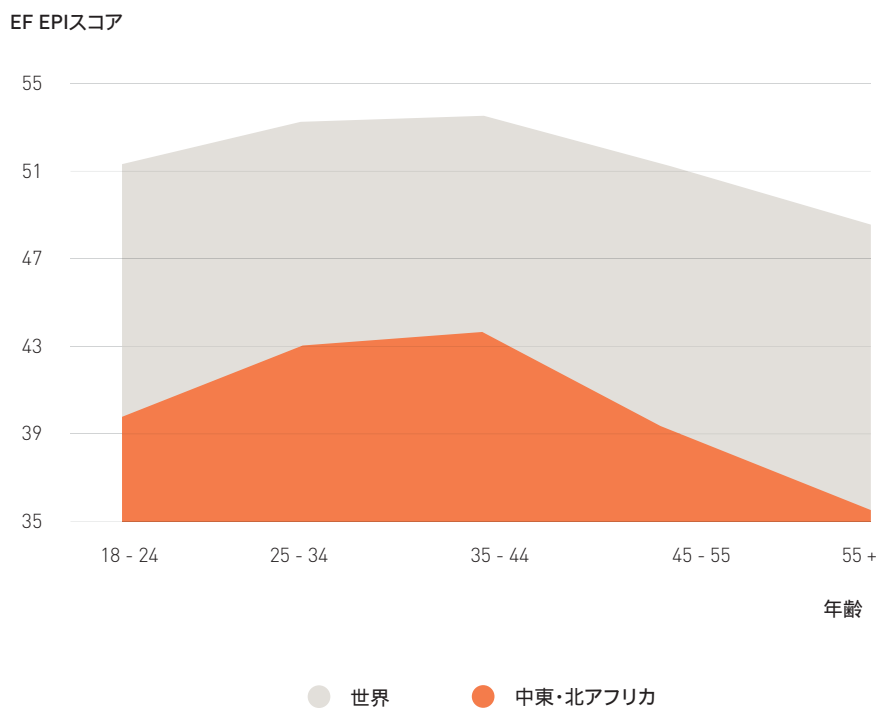
過去7年の中東・北アフリカ諸国の英語能力の減少は、もともと低い英語能力でありながら、著しい低下を示しています。2007年以降、中東・北アフリカ諸国の英語能力は平均で2.66ポイント減少しました。

EF EPI スコア変化



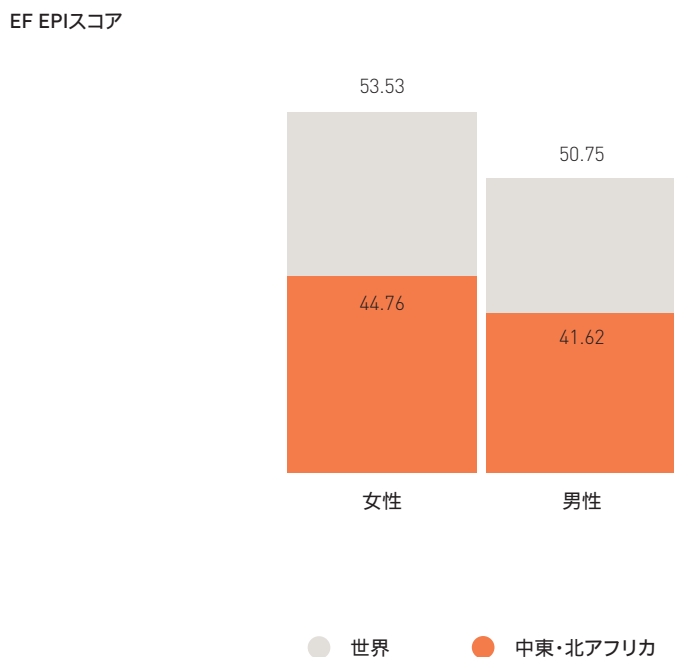
## 年齢別EPIスコア平均

MENAのトレンドは世界的な世代別トレンドと同様です。中堅世代(24~34歳と35~44歳)の英語能力が最も高くなっています。若年成人(18~24歳)は45~54歳のグループと同等の英語能力です。55歳以上の英語能力が最も低くなっています。



## 男女別EPIスコア平均

MENAの女性は男性よりも顕著に優れた結果を出しています( $p < 0.001$ )が、男女ともに世界平均より10点近く下回っています。



# 英語と経済競争力

EF EPI第1版から継続的に、国の英語能力レベルと社会および経済的指数には高い相関があるのを認識していました。

過去において外国語を話すこと、正確に言えば、国際貿易や外交において必要度の高い外国語を話すことは社会的、経済的地位を確立するために必要不可欠なこととされていました。英語は大英帝国の力によりその影響を世界に及ぼし、また第二次世界大戦後は米国の経済発展によって全世界に広まり、それまでフランス語を話すことが高い教育を受けた上流階級の象徴とされていた国々でも、英語がそれに代わっていきました。しかしながら、国際化や都市化、さらにインターネットの普及により、英語の役割はここ20年間でまた大きく変わってきています。現在では英語能力はエリートの象徴ではなくなり、米国や英国との結びつきも希薄になってきています。それよりもむしろ就労者全体に求められる基本的な能力となっており、それはちょうど知識階級の特権だった識字能力が、過去200年で教育を受けた市民なら誰もが持つ能力となったのと同じ感覚といえます。

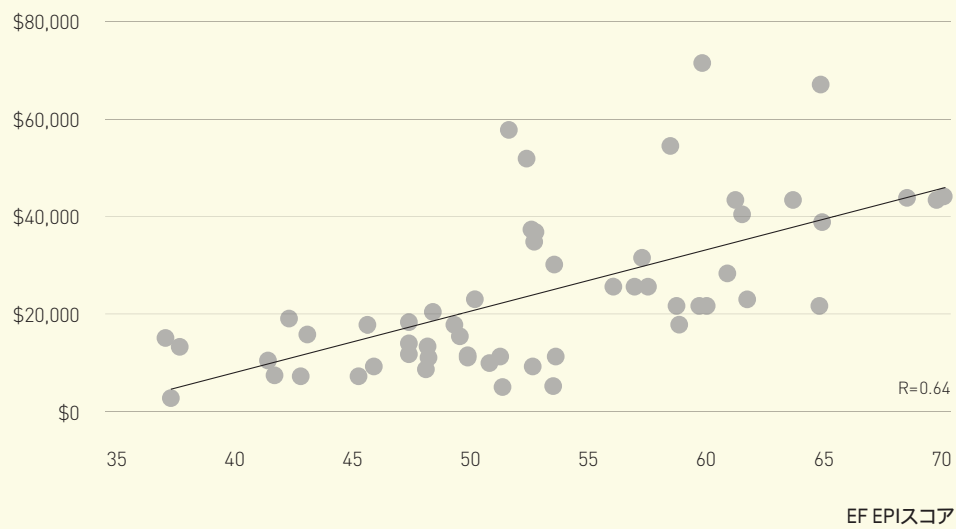
英語力の高さと収入の高さは比例する  
英語は雇用適性を決定する核となる要素として重要度を増しています。例えば、インドでは英語を流暢に話す従業員は英語をまったく話さない従業員に比べて平均して時給が34%高くなっており、英語をほんの少し話せるだけの場合でも話せない従業員よりも収入が13%高くなっています。

英語能力と一人当たりの国民総所得の比例関係は、英語能力の向上が高収入に繋がることで政府と個人がより多額の費用を英語教育に投資できる好循環ができていることを示唆しています。この関係は個人レベルにも作用しており、英語スキルの向上によってより良い仕事に応募できるようになり、生活水準が上がっています。



## 英語と経済競争力

一人当たりの国民総所得(米ドル)



参照: 世界銀行(2012)一人当たりの国民総所得(米ドル)

# 英語能力とビジネス

英語能力の高さはビジネスの行いやすさとも比例しています。世界的に見ても、ビジネスを英語で行う企業は増えています。英語でビジネスを行えない企業は競争力を落としています。

## 英語でのビジネス実践

世界銀行と国際金融公社のビジネスの行いやすさの指標は、世界中の経済の規制環境をビジネスの起業と運営をしやすさで順位付けしています。この指標には起業のしやすさ、国境を越えた貿易のしやすさ、契約執行のしやすさ、破産のおそれなどを含む10種類の指標も含まれます。英語能力の高さはビジネスの行いやすさとも比例しています。

英語が公用語ではない国々では、英語スキルが高い方がビジネスの行いやすさが高くなっています。現在は英語でビジネスを行う企業が世界中でどんどん増加しています。英語を社内公用語へ切り替える企業（楽天、ノキア、サムスン、ルノーなど）が増えてきています。英語を公用語にしていない企業は競争に出遅れているかもしれません。

英語能力が企業の競争力を向上させるのにはいくつかの理由があります：

## 海外進出の成功

グローバル化によって海外に目を向け、より国際的なビジネスを行う企業が増加しています。JPモルガン・チェースの調査では、2013年では中堅企業の61%がグローバル市場でビジネスを行っており、2011年の43%から2012年

の58%と上昇してきています。従業員や企業が自国の国内市場の外から来た同僚、仕入先、パートナーとコミュニケーションをとることが当たり前になりつつあります。このような条件下で成功している企業とは、スキルのある従業員と効果的に海外の国々とコミュニケーションをするためのトレーニングを有する企業です。

## コミュニケーション・ギャップによる損失を最小限にする

エコノミスト・インテリジェンス・ユニットが行った多国籍企業の経営者572人に対する調査では、半数近くがコミュニケーションの誤解が主要な国際取引の妨げとなっており、企業に大きな損失が出ていることを認めています。そのような損失を経験したことがあると答えた企業はブラジルでは74%、中国では61%と、この2ヶ国で特に多くなっています。

結論は明らかです。言語と文化の違いはビジネスの成功の障害となります。EIUの調査では、64%のビジネスリーダーが言語と文化の違いが海外市場における土台作りを困難にしており、文化の違いが国際的に拡大するための計画の妨げになっていると答えています。さらに、ビジネスリーダーの70%がビジネスへの出資者とのコミュニケーションで困難に遭遇することがあると答えています。

## より健全な収益

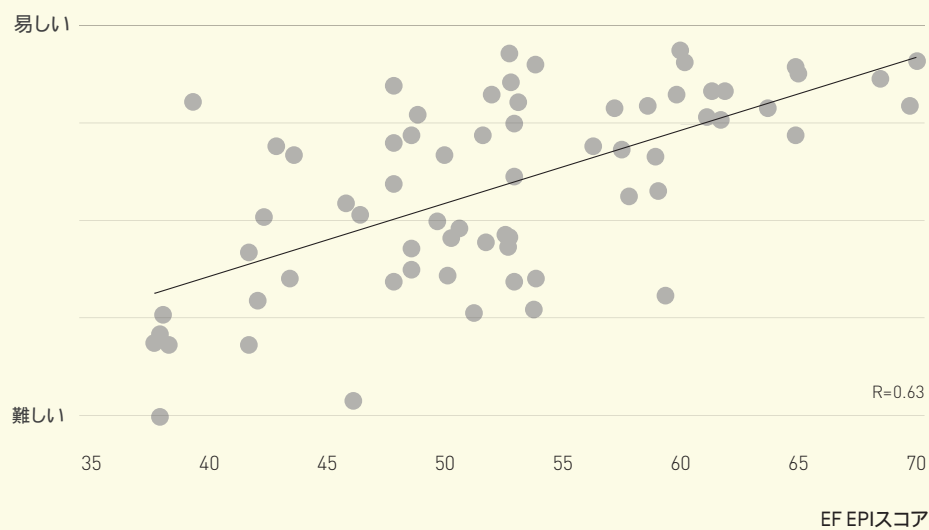
EIUが調査を行った572人の経営者の90%近くが企業における国境を越えたコミュニケーションが改善すれば、拡大の機会が広がり、販売機会を失うことが減って、利益、収益、市場占有率が大幅に上昇するだろうと答えています。2004年にIlluminasが実施した他の調査では、従業員の英語トレーニングに投資しているグローバル企業の意思決定者の79%が、売り上げが向上したと答えています。その他のビジネス利益には、従業員のコミュニケーションの改善、従業員の生産性の向上、顧客管理の向上があります。





## 英語能力とビジネス

ビジネスの行いやすさのスコア



参照: 世界銀行と国際金融公社 (2013) ビジネスの行いやすさ指標

# 英語と生活の質

人間開発指数やレガタム研究所の豊かさ指数など、生活の質を表す指標はEF EPIと比例しています。

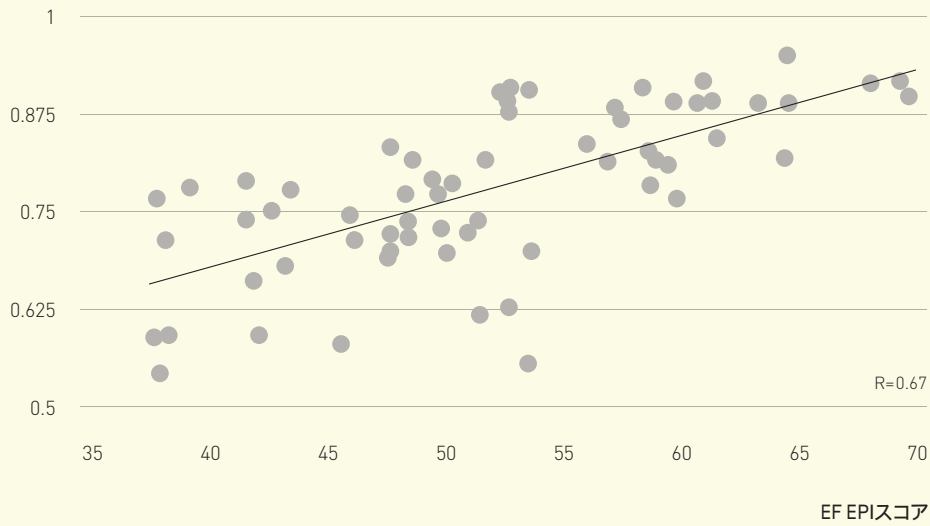
発展途上国の多くで、英語は贅沢なものとして扱われており、私立学校や大学のみで教えられています。英語能力が雇用適性や仕事での成功を決める中心的役割を担っている一方で、人材開発への繋がりを明らかにするのは困難です。英語力が今日におけるコアスキルであることを示す根拠があります。過去15年間で英語の重要性が増したことを考慮すると、現在の子供たちが社会人になる時には実務に役立つ優れた言語力が今以上に必要不可欠となっているでしょう。

人間開発指数やレガタム研究所の豊かさ指数など、生活の質を表す指標はEF EPIと比例しています。人間開発指数は教育的達成、平均寿命、収入を考慮しているのに対し、レガタム研究所の豊かさ指数には経済成長、起業家精神と起業機会、統治法、教育、健康、安心と安全、個人の自由、社会資本が含まれています。

「低い」または「標準的」な英語能力の国の中にも少数ながらも成長レベルの高い国があります。しかしながら、全ての「高い」および「非常に高い」英語能力の国は例外なく人間開発指数やレガタム研究所による豊かさ指数でよい成績を残しています。

## 英語と人間開発指数

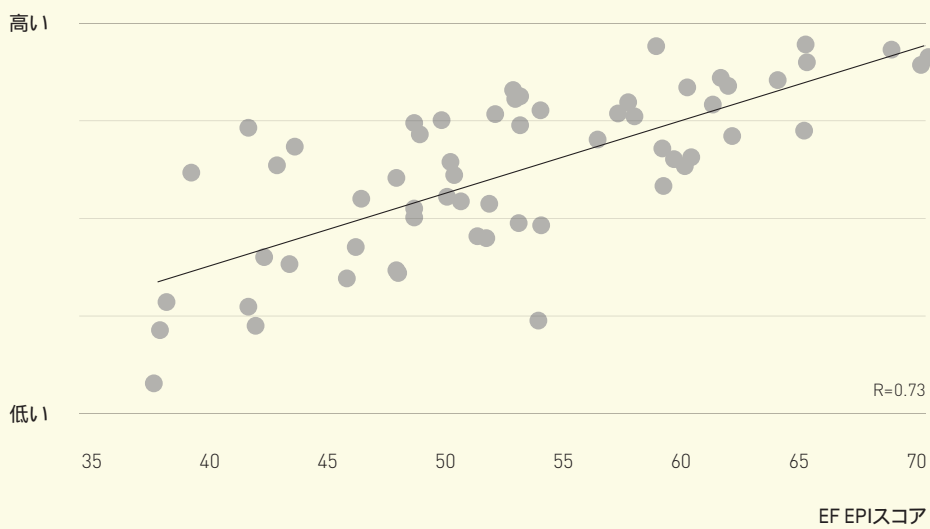
人間開発指数(HDI)



参照: 国連人間開発報告書(2012)

## 英語と豊かさ指数

レガタム研究所 豊かさ指数



参照: レガタム研究所(2013)

# 英語と公教育

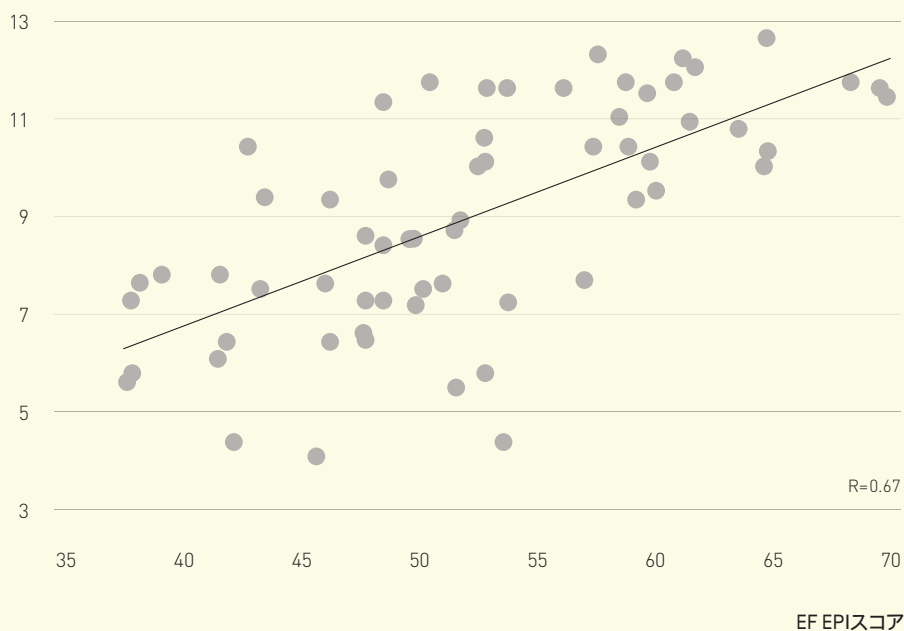
様々な政治的、経済的、文化的背景があるにもかかわらず、就学年数と英語能力には強い比例関係があります。

英語教育の主要な提供者は国家の教育制度です。歴史的に見て、生徒のほとんどは公立学校と大学制度で正規の学校教育を受けており、制度によって適正な能力目標を定められ、その目標に到達するためのカリキュラムと教育法を学校が提供し、目標の達成度が評価されてから学位が授与されます。様々な政治的、

経済的、文化的背景があるにもかかわらず、就学年数と英語能力には強い比例関係があります。英語能力向上とその恩恵を求めている国々は子供たちが言語を習得するのに十分な期間、学校教育を受けられるようにする必要があります。

## 英語と教育

平均就学年数



参照: 国連開発プログラム (2012)

# 英語とテクノロジー

技術的進歩は生徒が英語をより効率的に学習するための手助けとなります。英語能力が高い国々では、インターネット普及率も高くなっています。

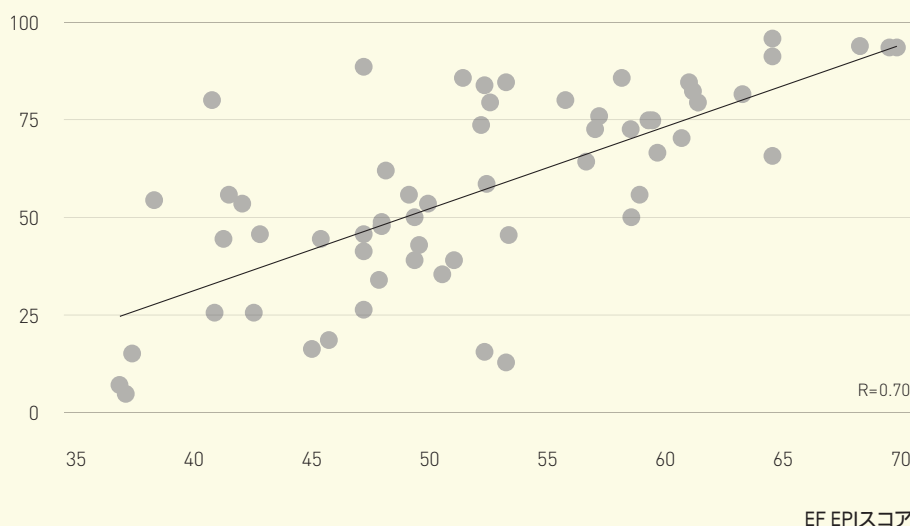
オンラインツールの使用は自分で英語力を強化できる活動です。英語スキルが向上することで、様々なオンラインツールやリソースにアクセスできるようになり、そのようなツールやリソースを活用することで、さらなる英語能力の向上につながります。英語能力の低い国々では、インターネットを活用することで英語教育をより個別化し、インタラクティブに、そして容易にアクセスができるようになります。

英語を取得するためには沢山の練習が必要です。インターネットは英語学習者がお互いに交流することができる境界の無いプラットフォームを提供します。ユーロモニター・インターナショナルの2012年度の報告書では、中東・北アフリカの若者たちの英語学習の一番の動機はオンラインソーシャルネットワークへの参加であると報告されています。自己学習、MOOCs、クラスルーム・ツイニングは全て、学校や家庭

でのインターネットアクセスがあってはじめて実現可能となります。言語の授業における使用可能なテクノロジーとその活用についての研究では、この分野には発展の余地がまだ十分に残されていることを示しています。

## 英語とインターネット

100人当たりのインターネットユーザー数



参照: 世界銀行(2012)

# 結論

英語は世界の共通語として年々受け入れられてきていますが、教育制度と社会が適応するまでには時間がかかります。就労者に対する英語の要求は高く、その要求に応えるため多くの国が試行錯誤しています。EFの調査では、ほとんどの国々で成人の能力レベルは向上していますが、効果のないプログラムに投資をしている国もあり、多くの国が包括的な国家プランを持ち合わせていません。

世界中における英語能力の成長の大部分は親、専門家、企業による個人の自発性による成果です。多くの人々や企業が独自の英語トレーニングを自費で行っている現状は、学校制度と公的プログラムの不足を明らかに示唆しています。

成功する改革には次のような共通する要素があります：

- 教育システムとの連携ができていて、小学校を卒業した生徒は中学教育を受ける準備ができており、高等学校を卒業した生徒は補習を受けずにそのまま大学に入学できています。連携するには地域全体と政府機関との間で調整が必要です。
- 英語能力をコア・コンピテンシーとして定義して、学校を卒業する条件としています。英語の役割を公認することによって他の政府機関と連携しやすくなり、改革に必要な推進力が生み出されます。

- 包括的なトレーニングプログラムを実践し、全ての英語教師に対してコミュニケーションスキルとメンター制度に重点を置いた訓練を実践しています。

- 英語を教育指導の手段として使用し、公立学校制度の様々なレベルにおいて実施しています。このようなスキームについての調査では、英語の学習と英語で教えられている科目の学習の間でバランスが取れていないことが分かっています。英語能力が向上するとそのギャップはなくなります。

- コミュニケーション力を効果的に評価する能力判定を発展させて、生徒と教師がもっとも有用性の高い外国語スキルに集中する動機づけをしています。

- 成人を支援して英語を効果的に学習できるようにしています。成人は時間や指導が不足していることが多いですが、モチベーションは不足していません。勉強への意欲を保つためにも、学習目標の立て方や、達成度を計測する手助けをすることが大切です。

- 留学のハードルを下げる 取り組み( 留学先の国と交渉、英語テストの無料提供、奨学金の企画、単位互換制度の標準化、公式な研究パートナーシップの設立 )を行っています。

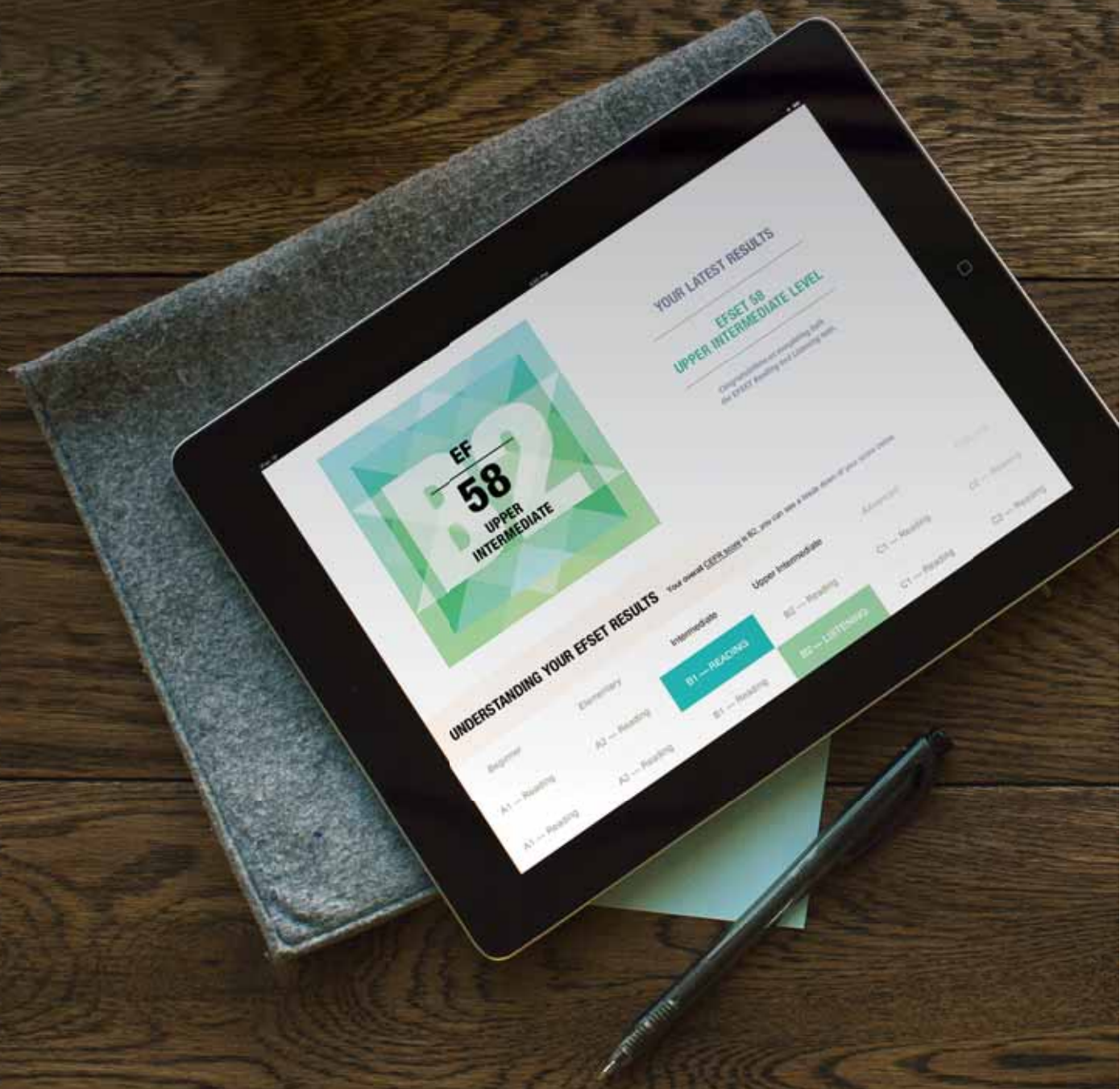
- 企業を主要な投資家として認識しています ( 英語教育の分野において )。ビジネスは英語を話せる人材の需要を高めているだけではなく、供給も行っていきます。何千万もの企業が従業員の英語トレーニングに投資していますが、多くの場合で満足できる結果が得られないか、結果が分からないままになっています。企業は最良の実践方法を共有して、独自の英語トレーニングプログラムを評価し、雇用条件を明確に定義することで、教育機関が企業のそういった需要に合わせた教育を提供できるようになります。

- 世界的イベントを利用して、オリンピック、ワールドカップなどの開催時に、街や国を挙げて英語能力向上キャンペーンを立ち上げています。国民の注目が集まって人々が活気づくと、学習意欲が高まりやすくなります。

他の国の取り組みを評価することで、個人、政府、企業は同様の落とし穴に陥ることなく、英語能力を向上させるのに最も効果的な方法を特定することができます。英語を学ぶための万能な解決策はありませんが、国際的に最適な実践方法が着実に登場してきています。EFはこの報告書を通して、そのような最高の実践方法を明らかにしたいと考えています。



# 今後の展望： 言語評価におけるEF EPI とイノベーション





世界: [www.efset.org](http://www.efset.org)  
中国: [www.efset.cn](http://www.efset.cn)

2011年の開始以降、EF EPIへの関心が高まり、個人、教育責任者、政策立案者の間で、安価で便利かつ信頼できる、効果的な英語能力テストに対する需要が高まるのを見てきました。Cambridge English FCE、TOEFL、TOEIC、IELTSなどの既存の英語標準テストは高品質ですが高額です。

加えて、毎年何百万もの人々がCambridge English FCE、TOEFL、TOEIC、IELTSを受験していますが、それは20億人近い英語学習者のごく一部の人々でしかありません。個人の英語学習者および企業や政府のような団体の多くが安価で高品質な英語標準テストにアクセスできていません。

このような現状を受けて、EFはEF英語標準テスト(EFSET)を開発しました。他の標準テストと同様の基準で構築されたEFSETは、無料で提供され、データに基づいた研究と分析の上に成立しています。テストの項目は経験豊かな試験作成者によって作られ、専門家集団によって注意深く見直されてから、様々な言語学習環境にいる多様な学習者のグループで試験運用されています。試験結果は、実際に運用されるEFSETへ追加する前に精神測定学者とテスト開発者によって分析されます。

全ての学習者がアクセスできる高品質な英語テストを作るため、EFSETはオンライン([www.efset.org](http://www.efset.org))にて無料で利用できます。EFSETの結果は次の版以降のEF EPIで使用され、国際的な成人の英語能力の指標として、EF EPIの発展に貢献するでしょう。



EF STANDARD ENGLISH TEST

# この指標について

## 分析方法

EF EPI英語能力指数は、毎年2種類の英語の試験を何十万という人々に受けてもらい、そのデータから各国の標準英語能力を測定するものです。そのうち1種類の試験はインターネットで受けられる無料の試験となっています。残りの1種類は、英語コースを始める人がオンラインで受験するクラス分け試験で、EFが学生の入学手続きに使用している実力試験です。これら2種類の試験はすべて、文法、語彙、リーディング、リスニングの項が含まれています。

オンライン実力試験は30問の質問からなる適応性のある試験で、受験者が既に回答した成否に合わせて質問の難易度が調整されていきます。残り1種類の試験は70問の質問で形成された非適応性のクラス分け試験です。全てのスコアは、EFのコースレベルに対して検証されてきました。これら2種類の試験の施行方法はすべて同じで、受験者が自宅のパソコンを使っています。

試験の結果によって証書が出されたり、進級できるといった特典があるわけではないので、受験者がごまかしをして点数を上げるということはありません。

## 試験受験者

EF EPI第4版は2013年の試験結果をもとに算出されています。この指数には、受験者数が400人以上の受験者の国だけのデータを使用しています。合計の受験者数にかかわらず、2種類の試験のいずれかの受験者数が100名以下の国のデータは使用していません。世界63の国と領域からの約75万人の受験者の試験結果が集計されています。

この指標で表されている受験者は任意で受験した人々であり、その国全体のレベルを代表するわけではありません。これから英語を勉強したいと思っている人、あるいは自分の英語力を知りたいと思っている人だけがこの試験を受けているので、一般人口よりも高いまたは低いスコア結果になっている可能性があります。

さらに、この試験はインターネット上で行われているため、インターネットにアクセスできない人、オンラインでの申し込みができない人は含まれていません。インターネットの使用率が低い国の結果では、このような受験者の除外による影響を大きく受けていると考えられます。このようなサンプリングのバイアスは、低所得や教育を受けていない、劣悪環境にいる人々を含む一般人口の平均スコアよりも高くする傾向があります。

## スコアの計算法

各国のEF EPIスコアは、質問の総数に対する回答正解率から出されています。一国のスコアは試験の総得点の平均です。各国の全スコアは各テストに同じ重みを持たせるよう、2テスト間で平均化されています。

それぞれの国はスコアに応じて能力別グループに分けられています。能力別グループに分けることで、どの国が同等の英語能力を持っているか認識でき、また近隣諸国との比較も可能になります。能力カテゴリーの枠組みは、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)とEFのコースレベルの基準で正確に区切られています。非常に高いレベルのグループはCEFRのB2レベルです。高い・標準的・低い能力指数はCEFRのB1レベルです。非常に低い能力グループはCEFRのA2レベルです。各グループの英語学習者がどのようなレベルかを詳しく調べるには次のページをご参照ください。

## EF EDUCATION FIRST (イー・エフ・エデュケーション・ファースト)

イー・エフ・エデュケーション・ファースト(www.ef.com)は、1965年に"opening the world through education."を使命として創設され、現在、50ヶ国以上に500の学校とオフィスを所有する国際教育機関です。長年にわたって言語、学術、文化的体験に重点的に取り組んだ実績が評価され、2016年リオ夏季オリンピックのオフィシャル言語プログラムサプライヤーにも選出されました。EF英語能力指数(www.ef.com/epi)はイー・エフ・エデュケーション・ファーストの事業部であるイー・エフ・ラーニング・ラボによって発行されています。

# CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠) と各レベル詳細

ネイティブレベル	C2	聞くこと、読むことに問題がなくすべて理解できる。会話の内容や文章の情報をまとめることができ、議論を再度組み立て一貫した主張ができる。とっさに言いたいことを流暢かつ正確に表現することができ、さらに複雑な状況においても細かい意味を識別することができる。
	C1	様々な種類の難しい長文や比喻表現なども理解することができる。言葉を探すことに時間をかけずに言いたいことを流暢かつ自然に表現できる。日常生活、学問、職業など様々な分野でフレキシブルに言語を効果的に使用できる。複雑なトピックスでも明確にしっかりと組み立てた文章を書くことが出来、文法を自由に操ることが出来る。
上級レベル	B2	自分の専門分野や得意分野でのディスカッションが出来る。具体的または抽象的なトピックの複雑な文章の主旨が理解できる。ネイティブスピーカーと流暢で自然にお互い無理なく会話することができる。様々なトピックスの会話に対応することができる。明確で詳しい文章を書くことができる。メリット、デメリット、選択肢を挙げて主旨を説明することができる。
	B1	仕事・学校・余暇など身近な場面での内容や会話の主旨を理解することができる。旅行でのやりとりをすることができる。個人的に興味を持っていること、身近なことについて簡単な文章を作ることができる。体験・出来事・夢・希望・志を話すことができ、意見や計画に対し簡単な理由と説明を挙げることができる。
基本レベル	A2	自分のこと(例:基本的な個人と家族の情報、住んでいる地域、ショッピング、仕事など)や自分に関係することについて頻繁に使われる表現や文章を理解することができる。身近で度々起きている内容に対し、簡単かつ決まった言い回しでコミュニケーションをとることができる。自分自身のバックグラウンド・環境・必要な内容を簡単に説明することができる。
	A1	日常で使われる基本的なフレーズと表現を理解することができる。自分自身と他人を紹介ことができ、どこに住んでいるか、知り合いのこと、持っているものなどについて質問または回答することができる。周りをはっきりゆっくり協力的に話す場面であれば、簡単な受け答えができる。

QUOTED FROM THE COUNCIL OF EUROPE

All countries in the EF EPI fell into bands corresponding to levels A2-B2. No countries had average scores placing them at either the lowest level, A1, or the highest two levels, C1 and C2.

# EF EPI 各国スコア

## 過去7年間にわたる英語スキルにおける変化の概況:

EF EPIスコアの差はEF EPI初版と第4版の国ごとのスコア差となっています。上昇、下降ともに2ポイント以上の変化があった場合は、著しく変化している傾向があると言えます。EF EPI初版は2007年から2009年の試験データを、第2版は2009年から2011年の試験データを、第3版は2012年の試験データを、第4版は2013年の試験データを使用しています。

国名	EF EPI 第1版	EF EPI 第4版	スコア変化
アルジェリア	47.13*	38.51	-8.62
アルゼンチン	53.49	59.02	+5.53
オーストリア	58.58	63.21	+4.63
ベルギー	57.23	61.21	+3.98
ブラジル	47.27	49.96	+2.69
カンボジア	—	38.25	new
チリ	44.63	48.75	+4.12
中国	47.62	50.15	+2.53
コロンビア	42.77	48.54	+5.77
コスタリカ	49.15	48.53	-0.62
チェコ共和国	51.31	57.42	+6.11
デンマーク	66.58	69.30	+2.72
ドミニカ共和国	44.91	53.66	+8.75
エクアドル	44.54	51.05	+6.51
エジプト	45.92*	42.13	-3.79
エルサルバドル	47.65	43.46	-4.19
エストニア	65.55#	61.39	-4.16
フィンランド	61.25	64.40	+3.15
フランス	53.16	52.69	-0.47
ドイツ	56.64	60.89	+4.25
グアテマラ	47.80	45.77	-2.03
香港	54.44	52.50	-1.94
ハンガリー	50.80	58.55	+7.75
インド	47.35	53.54	+6.19
インドネシア	44.78	52.74	+7.96
イラン	52.92*	41.83	-11.09
イラク	38.16#	38.02	-0.14
イタリア	49.05	52.80	+3.75
日本	54.17	52.88	-1.29
ヨルダン	46.44#	47.82	+1.38
カザフスタン	31.74	42.97	+11.23
クウェート	47.01*	41.80	-5.21

国名	EF EPI 第1版	EF EPI 第4版	スコア変化
ラトビア	57.66 <sup>#</sup>	59.43	+1.77
リビア	42.53 <sup>*</sup>	38.19	-4.34
マレーシア	55.54	59.73	+4.19
メキシコ	51.48	49.83	-1.65
モロッコ	49.40 <sup>*</sup>	42.43	-6.97
オランダ	67.93	68.99	+1.06
ノルウェー	69.09	64.33	-4.76
パナマ	43.62	43.70	+0.08
ペルー	44.71	51.46	+6.75
ポーランド	54.62	64.26	+9.64
ポルトガル	53.62	56.83	+3.21
カタール	48.79 <sup>*</sup>	47.81	-0.98
ルーマニア	—	58.63	new
ロシア	45.79	50.44	+4.65
サウジアラビア	48.05	39.48	-8.57
シンガポール	58.65 <sup>*</sup>	59.58	+0.93
スロバキア	50.64	55.96	+5.32
スロベニア	60.19 <sup>#</sup>	60.60	+0.41
韓国	54.19	53.62	-0.57
スペイン	49.01	57.18	+8.17
スリランカ	51.47 <sup>#</sup>	46.37	-5.10
スウェーデン	66.26	67.80	+1.54
スイス	54.60	58.29	+3.69
台湾	48.93	52.56	+3.63
タイ	39.41	47.79	+8.38
トルコ	37.66	47.80	+10.14
ウクライナ	53.09 <sup>#</sup>	48.50	-4.59
アラブ首長国連邦	45.53 <sup>*</sup>	51.80	+6.27
ウルグアイ	53.42 <sup>*</sup>	49.61	-3.81
ベネズエラ	44.43	46.12	+1.69
ベトナム	44.32	51.57	+7.25

<sup>\*</sup>この国はEF EPI第1版で出ていませんので、EF EPI第2版のスコアを基にしています。

<sup>#</sup>この国は過去のEF EPI号に載っていませんので、EF EPI第3号のスコアを基にしております。

## 参考文献

- Bolton, Kingsley, ed. *Hong Kong English: Autonomy and Creativity*. Hong Kong: Hong Kong University Press, 2002.
- Cabral, Antonio, Brindusa Anghel, and Jesús M. Carro. *Evaluating a bilingual education program in Spain: the impact beyond foreign language learning*. London: Centre for Economic Policy Research, 2012.
- Council of Europe. *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment*. Cambridge: Cambridge University Press, 2011.
- De Lotbinière, Max. "Test for teachers kicks off Malaysia's push for English." 16 October 2012. *The Guardian*.  
<http://www.theguardian.com/education/2012/oct/16/malaysia-internationaleducationnews>.
- Harris, Gill. "Despite a troubled history, Argentina still needs the English language." 10 March 2014. *The Guardian*.  
<http://www.theguardian.com/education/2014/mar/10/argentina-economic-stability-english-language>
- Hicks, Bill. "Poland scores late goals in education." 12 June 2012. *BBC News*.  
<http://www.bbc.com/news/business-18151512>.
- Howson, Paul. *The English Effect*. London: British Council, 2013.
- Jung, Min-ho, and Jung Sung-eun. "Questions remain over billions blown on NEAT." 21 May 2014. *The Korea Times*.  
[http://www.koreatimes.co.kr/www/news/nation/2014/05/181\\_157589.html](http://www.koreatimes.co.kr/www/news/nation/2014/05/181_157589.html)
- Kameda, Masaaki. "Education ministry body to roll out English-only meetings." 30 April 2014. *The Japan Times*.  
[http://www.japantimes.co.jp/news/2014/04/30/national/education-ministry-body-roll-english-meetings/#.U4Kd\\_pSSxZ6](http://www.japantimes.co.jp/news/2014/04/30/national/education-ministry-body-roll-english-meetings/#.U4Kd_pSSxZ6)
- Meganathan, Ramanujam. "Language policy in education and the role of English in India: From library language to language of empowerment." *Dreams and Realities: Developing Countries and the English Language*. Ed. Hywel Coleman. London: British Council, 2011. 59-88.
- Minder, Raphael. "In Troubled Spain, Boom Times for Foreign Languages." 30 March 2011. *The New York Times*.  
[http://www.nytimes.com/2011/03/30/world/europe/30iht-spain30.html?pagewanted=all&\\_r=1&](http://www.nytimes.com/2011/03/30/world/europe/30iht-spain30.html?pagewanted=all&_r=1&)
- Ministry of Education, Chile. Programa Inglés Abre Puertas. 2014.  
<http://www.ingles.mineduc.cl/>
- Ministry of Education and Culture, Hungary. *Education in Hungary: Past, Present, Future - An Overview*. Budapest: Ministry of Education and Culture, Hungary, 2008.
- Murphy, Colum. "English May Be Losing Its Luster in China." 7 November 2013. *The Wall Street Journal*.  
<http://blogs.wsj.com/chinarealtime/2013/11/07/learning-english-may-be-losing-its-luster-in-china/>
- Neeley, Tsedal. "Global Business Speaks English." *Harvard Business Review* (2012): 116-124.
- The Observatory of Economic Complexity. Imports and Trade Partners. OEC: Mexico Profile of Exports, Imports and Trading Partners. 2011.  
<http://atlas.media.mit.edu/profile/country/dom/>
- Organization for Economic Co-operation and Development. *PISA 2012 Results in Focus*. 2012.  
<http://www.oecd.org/pisa/keyfindings/pisa-2012-results-overview.pdf>
- Porto, Melina. "The Role and Status of English in Spanish-Speaking Argentina and Its Education System: Nationalism or Imperialism?" *SAGE Open* (2014): 1-14.
- StudentMarketing Ltd. *English Language Market Report: Russia*. London: British Council, 2013.
- The World Bank. *The Road Not Traveled: Education Reform in the Middle East and North Africa*. Washington, D. C.: The World Bank, 2008.

EPI英語能力指数レポートのバックナンバーは  
[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi) からダウンロードできます。



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
1st Edition (2011)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
2nd Edition (2012)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
3rd Edition (2013)



EF ENGLISH PROFICIENCY INDEX  
4th Edition (2014)





CONTACT US  
[www.ef.com/epi](http://www.ef.com/epi)

# EF EPI

---

EF English Proficiency Index